

株式会社 **エー**

(東証プライム:6850)



2024年3月期 第2四半期
会社・決算説明資料

目次

➤ 1. チノーグループの概要	P 2
➤ 2. 事業の概要	P 8
➤ 3. チノーの強み	P16
➤ 4. ソリューション事例	P21
➤ 5. 決算概要	P32
➤ 6. 今後の取組み	P40
➤ 7. トピックス	P46
➤ 8. 株主還元等	P49
➤ Appendix	P55

》 1. チノーグループの概要

CHINO



会社概要

会社名	株式会社チノー CHINO CORPORATION
本社	東京都板橋区熊野町32-8
代表者	代表取締役 社長執行役員 豊田三喜男
事業内容	計測制御機器の製造・販売、計装工事
会社設立	1936年8月1日
株式	東京証券取引所 プライム市場
従業員数	連結：1,101名 単体：687名 (2023年3月末現在)
グループ会社	12社 (国内 6社、海外 6社)

当社の生産拠点・販売拠点 国内グループ会社

生産拠点 (3拠点)

藤岡事業所 久喜事業所 山形事業所

販売拠点 (3支店<16営業所>)

東日本支店 (8営業所・1出張所)
大阪支店 (5営業所・1分室)
名古屋支店 (3営業所)

国内グループ会社 (6社)

- ・ 株式会社チノーソフテックス
- ・ アーズ株式会社
- ・ 三基計装株式会社
- ・ アドバンス理工株式会社
- ・ 株式会社浅川レンズ製作所
- ・ 明陽電機株式会社

海外グループ会社

当社はグローバル展開を最重要課題の一つとして取り組んでいます。
顧客密着で現地ニーズに基づく製品を開発・生産して販売する“地産地消”を
推進しています。

海外拠点数

6 拠点
(5か国)

千野测控設備（昆山）有限公司

韓国チノ株式会社

CHINO Works America Inc.

上海大華 - 千野儀表有限公司

CHINO Corporation India Private Limited

CHINO Corporation (Thailand)Limited

沿革

1913

創業

(株)千野製作所
設立

1936

東証市場第二部
上場

1962

藤岡事業所
竣工

1963

久喜事業所
竣工

1978

東証市場第一部
へ指定替え

1979

創立50周年を機
に(株)チノーに
社名変更

1986

本社・研究所
新社屋竣工、移転

1990

(株)山形チノー
(現 山形事業所)
設立

1992

藤岡事業所に生物
多様性保全をめざし
ビオトープ開設

2011

創立80周年

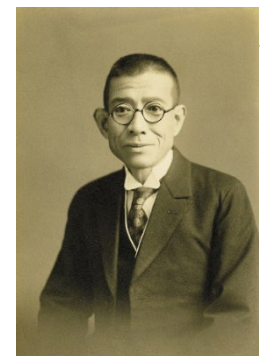
2016

明陽電機(株)の
子会社化

2020

東証
プライム市場
へ移行

2022



創業者 千野一雄



千野製作所



チノー本社

企業理念

計測・制御・監視技術の限界に挑戦し、
産業の発展とより良い明日の社会の実現に貢献する

創立90周年(2026年)に向けた経営ビジョン



共創

環境の変化を捉えながらステークホルダーと共に新しい価値を創造します

特長

卓越した技術によるループソリューションでお客様に感動をお届けします

信頼

信頼の“絆”を強め 情熱とチームワークで未来に向かって成長し続けます

》 2. 事業の概要

CHINO



当社グループの事業セグメント

事業セグメント		主な製品
計測制御機器	プラントや工場などの様々な製造現場の基盤を支える記録・制御に必要な記録計、調節計、電力調整器を提供。	<ul style="list-style-type: none">・記録計・調節計・電力調整器・ロガー
計装システム	計測・制御・監視技術を活かし、お客様の目的に合わせた計器をコーディネートする計装システムを提供。 各種評価試験装置やパッケージソフトを提供。	<ul style="list-style-type: none">・評価試験・性能耐久試験・集録監視パッケージシステム
センサ	接触型温度センサ、赤外線技術を応用した放射温度計、熱画像計測装置および湿度センサや成分計を提供。	<ul style="list-style-type: none">・温度・湿度・成分水分厚さ計測・温度校正
その他	修理、サービスを提供。	

<計測制御機器>

主な製品

記録計

調節計

電力調整器
(サイリスタレギュレータ)

ロガー

記録計



温度を記録する

調節計



温度を制御する

電力調整器
(サイリスタレギュレータ)



電力を調整する

無線ロガー



温度を計測・管理する

<計装システム>

主な製品

評価試験

性能・耐久試験

集録・監視パッケージシステム
(CISAS/V4)

燃料電池 評価試験装置



燃料電池自動車等
が効率よく電気を
起こしているかを
評価する装置

水電解評価装置



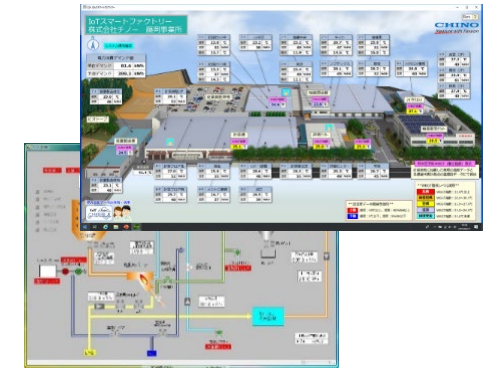
水を水素と酸素に
電気分解して、効
率よく水素を取り
出せるかを評価す
る装置

コンプレッサ 性能試験装置



エアコン<自動車・
家電>のコンプレッ
サ性能・耐久試験
装置

集録・監視パッケージ システム (CISAS/V4)



各種装置・設備な
どのデータをパソ
コンで集録・監視
を行うシステム

<センサ>

主な製品 >>

温度

湿度

成分・水分・厚さ計測

温度校正

高温用シース
熱電対



放射温度計



熱画像計測装置



赤外線多成分計



温度校正装置



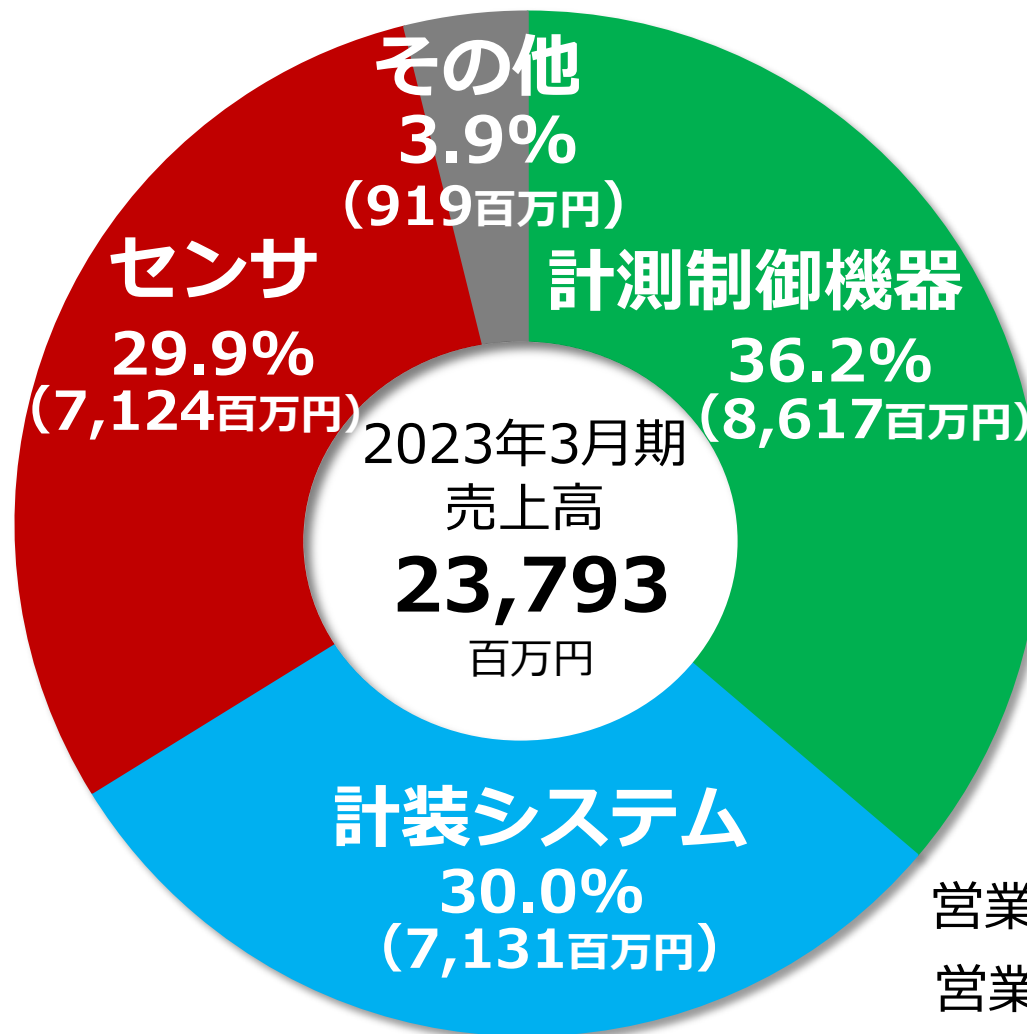
接触形温度センサ

赤外線技術を応用
した**非接触形**温度
センサ

赤外線技術による
計測器<水分・
フィルム厚さ・塗
工厚さ>

温度センサの温度
誤差を点検する装
置

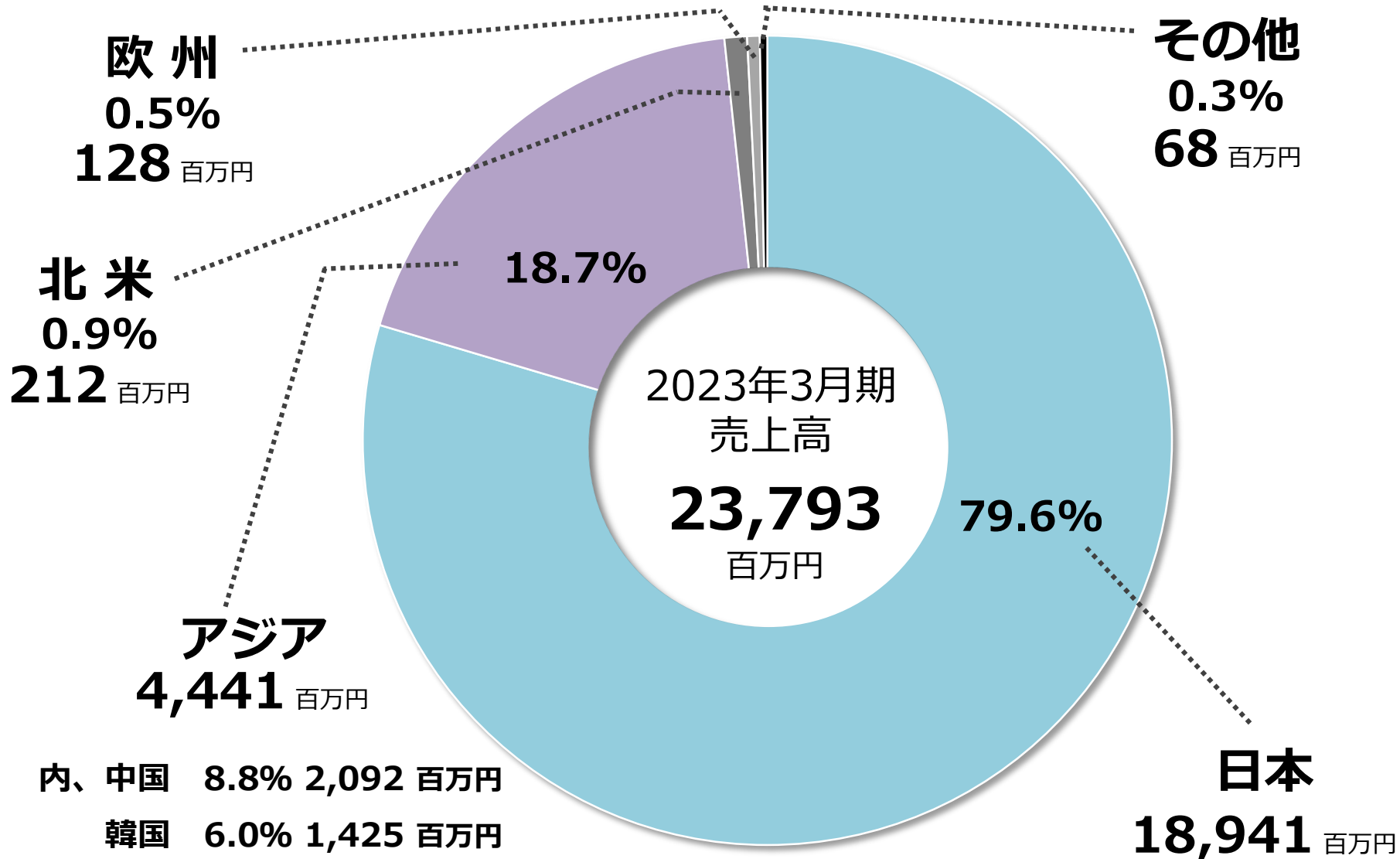
セグメント別売上高



営業利益 : 2,018百万円

営業利益率: 8.5%

地域別売上高



当社製品のシェア（2022年国内販売金額ベース〈単体〉）

◆ 記録計 ： 国内市場シェア **14.5 %**（国内 **3** 位）

◆ 調節計 ： 国内市場シェア **4.5 %**（国内 **5** 位）

◆ 電力調整器 ： 国内市場シェア **18.9 %**（国内 **2** 位）

出所：2023年版 注目メカトロニクスパーツ市場実態総調査（富士経済）

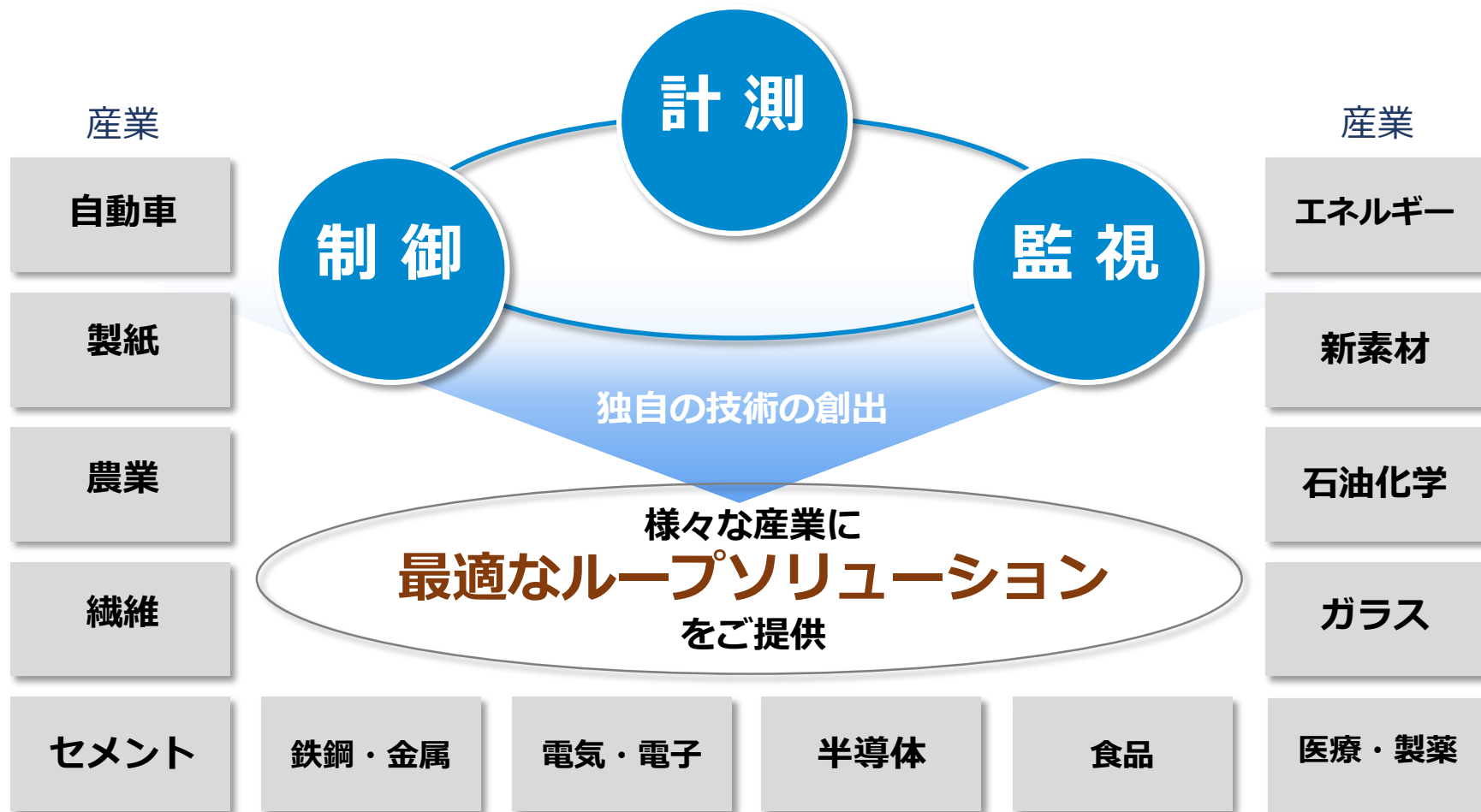
》 3. チノーの強み

CHINO



事業の特長 ループソリューションによる顧客価値の創造

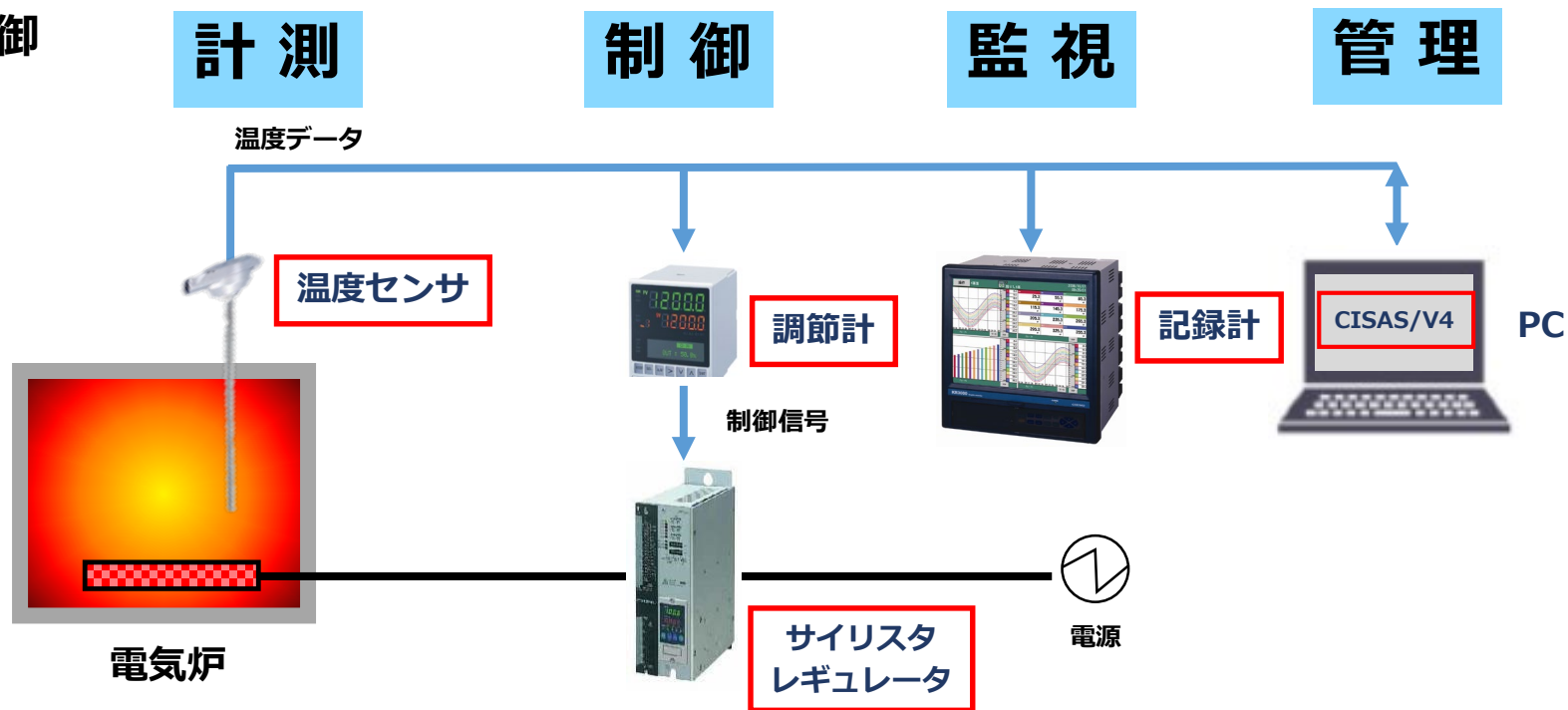
「温度のチノー」として、温度を軸として長年培ってきた
①計測の技術 ②制御の技術 ③監視の技術



ループソリューションとは

お客様の様々なニーズに合わせて、計測・制御・監視の製品を組み合わせた**温度ループソリューション**（計測・制御・監視の一元管理）を**ワンストップ**で提供しています。これは**他社にはない当社の特長**になります。

電気炉の温度制御



: 当社製品

世界29か国の国家標準機関に標準温度センサが採用

当社はセンサの温度の誤差を把握する（校正）事業を行っており、国に認められたJCSS（計量法事業者登録制度）の登録事業者として、**国と同等の効力**を持った**温度に関する証明書**を発行することができます。
また**世界29か国の国家標準機関に標準温度センサ**の納入実績があります。

標準温度センサ

（「温度誤差把握の基準」となる温度センサ）



株式会社チノー標準技術部は、認定基準として ISO/IEC17025 を用い、認定スキームを ISO/IEC17011 に従って運営されている JCSS（計量法校正事業者登録制度）の下で認定されています。JCSS の認定機関である IAJapan は、アジア太平洋認定協力機構（APAC）及び国際試験所認定協力機構（ILAC）の相互承認に署名しています。0024 は当社標準技術部の登録番号です。



標準白金測温抵抗体／熱電対



標準用放射温度計

温度ループソリューション

お客様のニーズに最適な
温度ループソリューション
(計測・制御・監視の一元管理)
をワンストップ提供

世界29か国で 標準温度センサ として採用

JCSS登録事業者として
国と同等の証明書を発行可能

水素社会 実現に貢献

「燃料電池（水素を使う）」
「水電解（水素を作る）」の
研究開発用の試験装置を提供し、
社会のサステナビリティに貢献

極低温から超高温 までの温度測定

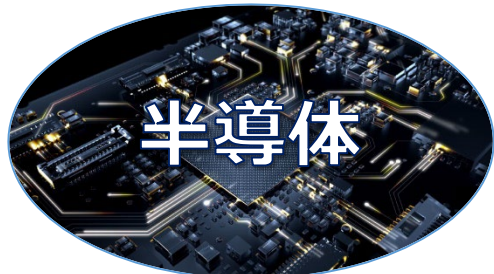
-269℃から3,500℃
までの温度を計測
※放射温度計のトップメーカー

➤ 4. ソリューション事例

CHINO



産業別ソリューション



半導体

製造プロセスにおける高温・高速の温度計測・制御
⇒半導体の品質向上



医薬

医薬品保管庫の温度計測・監視
⇒正確性とトレーサビリティの確保



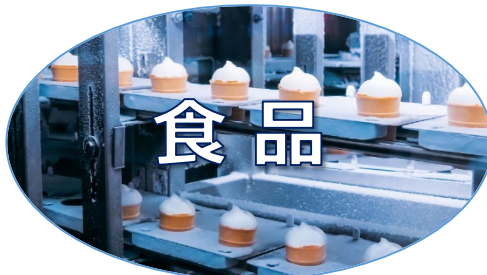
エネルギー

太陽電池製造プロセスの温度管理、
燃料電池性能評価装置の提供
⇒持続的な社会の発展に貢献



鉄鋼

赤外線を利用した温度計測・監視
⇒鋼材の品質向上、製造設備の安全確保



食品

各プロセス（製造～流通）の温度計測・記録
⇒食品の安全・安心に貢献



新素材

温度計測・制御
⇒新素材（航空機）の品質向上



自動車

部品製造工程の温度管理、コンプレッサ性能評価装置の提供
⇒安全で環境に配慮した生産



アグリビジネス (農業)

園芸施設の温湿度の計測・可視化
⇒作物の計画生産と品質向上

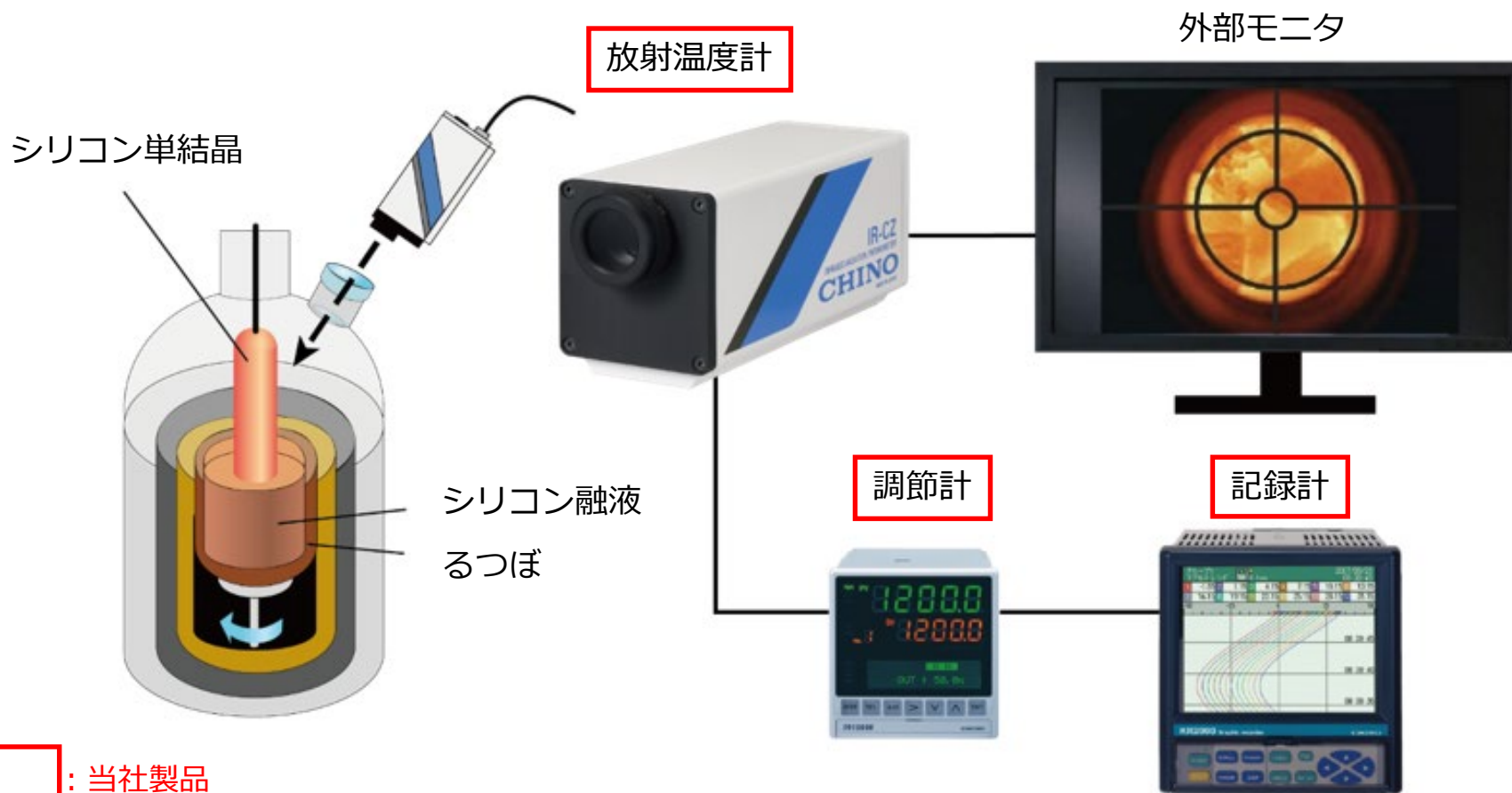


ガラス

製造ラインにおける温度計測
⇒透明度・強度の高いガラスづくり

半導体関連（製造プロセスの温度管理）

厳密な温度制御を要する半導体製造プロセス（シリコン単結晶引上げ時の温度計測）において、当社の「計測・制御・監視」技術が貢献しています。



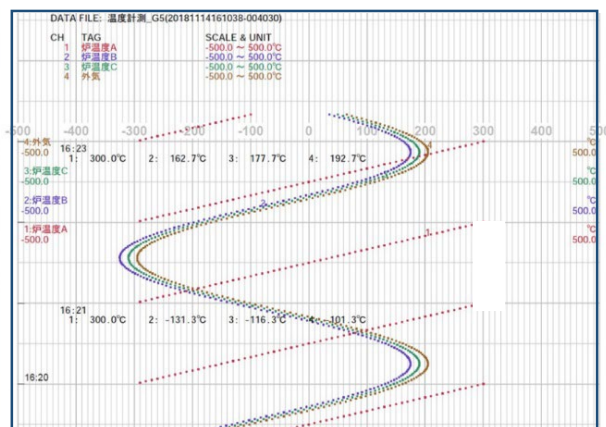
: 当社製品

航空機・自動車関連（金属熱処理温度管理）

航空機部品や自動車部品の熱処理工程（金属を高温で加工する工程）においては、**高度な規格への対応**が要求されており、当社はその対応を支援しています。



記録計



AMS2750

航空宇宙産業における特殊工程（溶接・熱処理など）の規格。

IATF 16949/CQI-9

自動車部品メーカーに対する熱処理工程評価の規格。



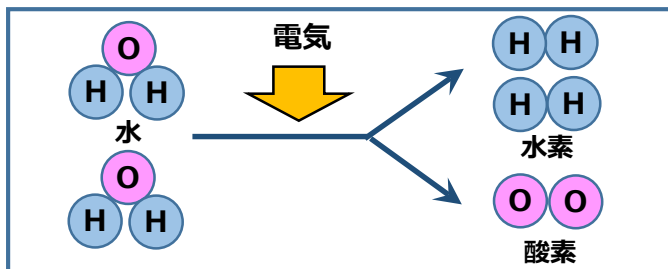
 : 当社製品

水素関連①（水素を「作る」・「使う」）

水素を「作る」・「使う」システムの評価装置を提供しています。

◆ 水電解評価装置

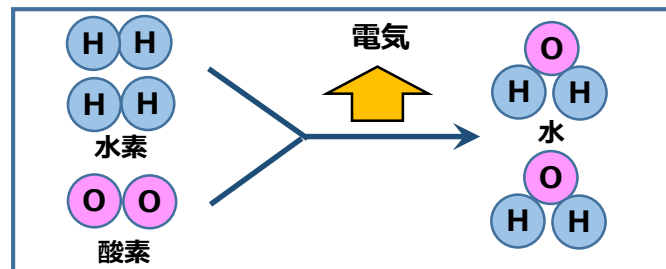
水素を「作る」：水の電気分解



- ✓ 水を水素と酸素に電気分解して、効率よく水素を取り出せるかを評価する装置

◆ 燃料電池評価試験装置

水素を「使う」：燃料電池

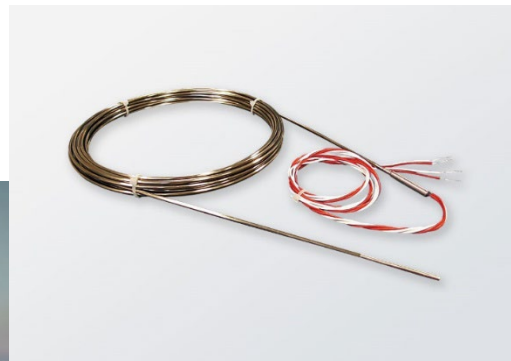


- ✓ 燃料電池自動車等が効率よく電気を起こしているかを評価する装置
- ✓ 1995年から顧客の研究開発用に販売し、**30年近いノウハウの積がある（業界標準の地位を確保）**

 : 当社製品

水素関連②（水素を「運ぶ」）

水素の輸送にはマイナス253℃以下で液化した状態を保つことが必要で、当社グループ（明陽電機(株)）のセンサ技術が液体水素の正確な温度管理に貢献しています。



液体水素用測温抵抗体

概要

- ・液体水素輸送船向け超低温温度センサー
- ・長時間大きな揺れが続く海上でも、-253℃の温度を正確に計測
- ・海外から水素を日本に運搬する船に搭載

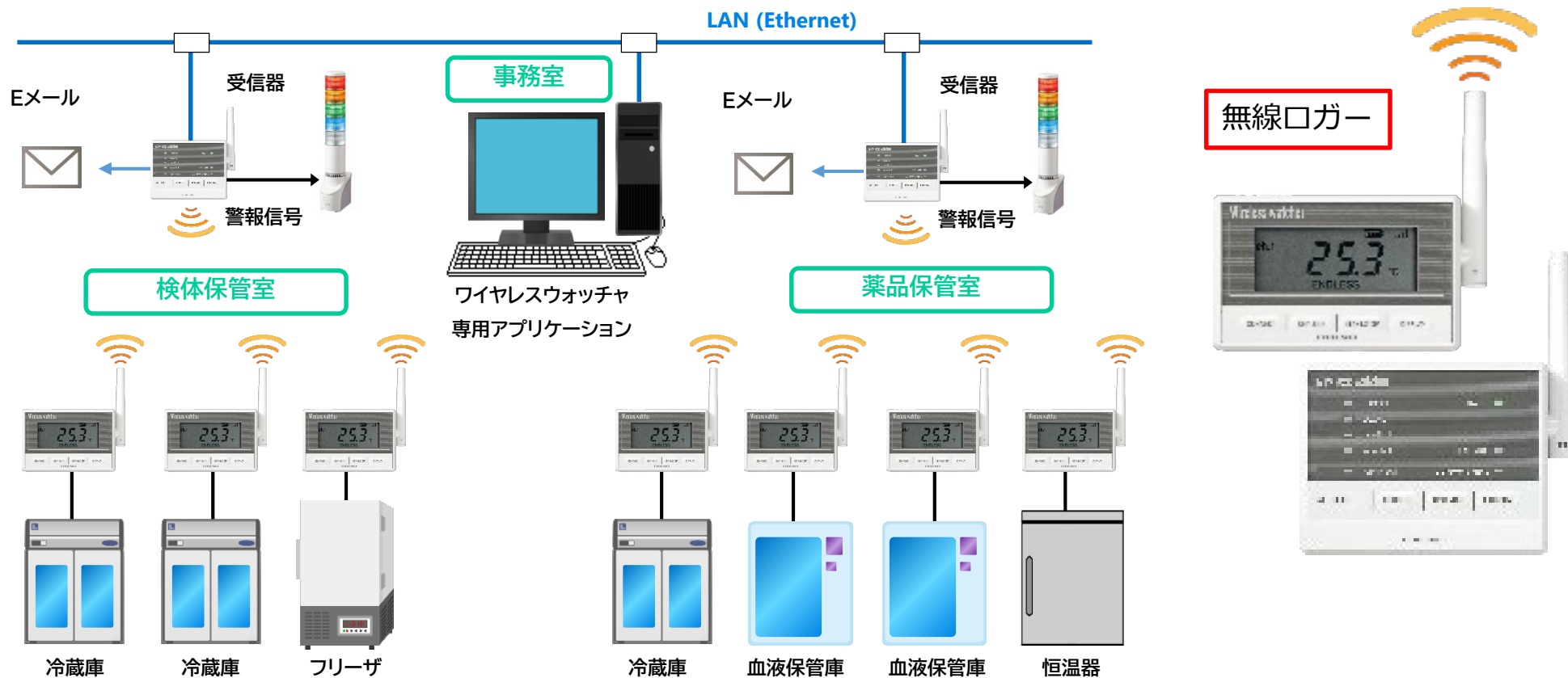
特長

- ・LH2タンク内の液体水素（-253℃）に直接接触して温度測定可能
- ・貼り付けタイプ製品（固定しにくい場所に使用）

 : 明陽電機(株)製品

医薬品関連（血液保管庫の温度監視）

血液センター内の広範囲に点在する血液保管庫等の温度監視、データ保管を行い、**血液／血液製剤の安全保管**に貢献しています。



無線口ガー : 当社製品

DX関連（製造現場の遠隔監視）

製造現場の稼働率、暑さ指数等をデジタル化し集中監視するシステムを提供しています。

IoTスマートファクトリー 株式会社チノ 藤岡事業所

更新：2023年 6月28日 14時48分 Rev. 4

システム構成確認 | 稼働率確認 | 生産フロア確認 | Webレコーダ確認

CHINO Measure with Passion

電力消費デマンド値
 現在デマンド 311.9 kWh
 予測デマンド 500.4 kWh

暑さ指数 (WBGT) 予測値 (更新日時: 2023/06/28 14:26)

32°C / -°C | 33°C / 22°C

3-2 記録計中央: 温度 24.2°C, 湿度 44%RH, WBGT 18.8°C, 露点 11.2°C

3-1 LC校正: 温度 24.9°C, 湿度 37%RH, WBGT 18.6°C

2-5 倉庫中央: 温度 24.9°C, 湿度 43%RH, WBGT 19.3°C, 露点 12.3°C

2-3 キット: 温度 24.9°C, 湿度 43%RH, WBGT 19.3°C, 露点 11.5°C

2-2 倉庫東: 温度 25.9°C, 湿度 51%RH, WBGT 21.0°C, 露点 15.0°C

1-3 3F社員食堂: 温度 26.5°C, 湿度 62%RH, WBGT 22.8°C

1-2 2F機器開発: 温度 25.2°C, 湿度 52%RH, WBGT 20.5°C

1-1 1F総務: 温度 24.4°C, 湿度 65%RH, WBGT 21.2°C

9-3 百庫組: 温度 29.9°C, 湿度 71%RH, WBGT 25.9°C, 風速 26.7°C

9-1 1Fラウパ(D): 温度 25.3°C, 湿度 62%RH, WBGT 21.7°C

7-1 装置製造北: 温度 26.5°C, 湿度 60%RH, WBGT 22.6°C

6-4 計装生産北: 温度 26.3°C, 湿度 56%RH, WBGT 22.0°C

6-1 板金: 温度 25.9°C, 湿度 56%RH, WBGT 21.6°C

5-2 トリノ調整: 温度 26.9°C, 湿度 63%RH, WBGT 23.3°C

5-1 計装更衣室: 温度 31.6°C, 湿度 58%RH, WBGT 27.0°C

4-1 評価センター: 温度 26.3°C, 湿度 29%RH, WBGT 18.7°C

4-2 守備: 温度 27.0°C, 湿度 50%RH, WBGT 21.9°C

7-2 装置製造南: 温度 25.5°C, 湿度 60%RH, WBGT 21.7°C

6-5 計装生産南: 温度 26.3°C, 湿度 56%RH, WBGT 22.0°C

6-3 幼中事務: 温度 25.6°C, 湿度 57%RH, WBGT 21.4°C

5-3 加工: 温度 20.4°C, 湿度 46%RH, WBGT 15.7°C

3-3 記録計南: 温度 25.0°C, 湿度 41%RH, WBGT 19.1°C, 露点 10.8°C

2-4 発送: 温度 25.8°C, 湿度 41%RH, WBGT 19.8°C, 露点 11.6°C

2-4 生産技術: 温度 25.0°C, 湿度 41%RH, WBGT 19.1°C

2-1 管理: 温度 24.8°C, 湿度 56%RH, WBGT 20.6°C

6-2 計装調整: 温度 25.8°C, 湿度 58%RH, WBGT 21.7°C

6-2 従業員駐車場: 温度 26.5°C

6-2 機器製造棟: 温度 32.0°C

6-2 評価センター: 温度 32.0°C

7-1 装置製造棟: 温度 27.2°C

7-2 装置製造棟: 温度 28.6°C

7-2 発熱検知監視

7-2 計装開発センター

7-2 計装生産棟

7-2 A*ノ庫南1~3: 温度 27.2°C

7-2 A*ノ庫北: 温度 26.5°C

7-2 A*ノ庫東4~6: 温度 32.0°C

7-2 機器開発センター

7-2 ナホーランド監視

見える化データの共有・活用

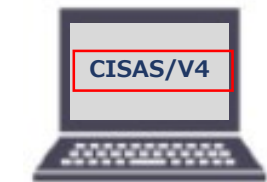
IoT of Passion

危険 WBGT指数: 31.0以上
 嚴重警戒 WBGT指数: 28.0~30.9
 警戒 WBGT指数: 25.0~27.9
 注意 WBGT指数: 21.0~24.9
 ほぼ安全 WBGT指数: 21.0未満

WBGT警戒レベル識別

暑中症予防WBGT(暑さ指数)表示
 計装南側に設置した集球の温度データと各計測点の温度データにより算出

温度湿度警報閾値
 上席 温度: 40°C以上、湿度: 90%RH以上
 下席 温度: 5°C以下、湿度: 5%RH以下



 : 当社製品

藤岡事業所の電力使用状況等が当社のホームページでご覧頂けます。

※URL : <https://www.chino.co.jp/support/case/cisas-monitoring/>

熱中症対策関連

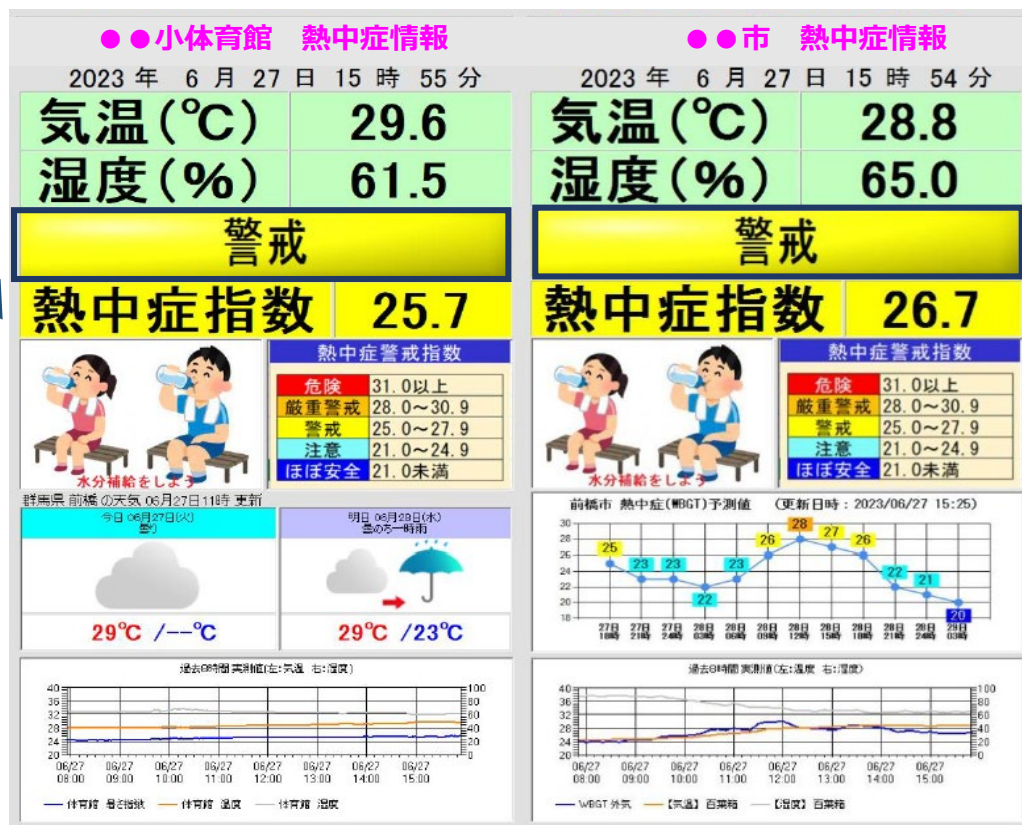
暑さ指数WBGT監視システムでは、測定した「気温・相対湿度・黒球温度」よりWBGT基準値（※）を算出して、**熱中症の予防監視**を行うことができます。

※WBGT基準値：暑熱環境による熱ストレスの評価を行う暑さ指数

熱中症予防WBGT（暑さ指数）表示
計装南側に設置した黒球の温度データと各計測点の温湿度データにより算出

WBGT警戒レベル識別

危険	WBGT指数：31.0℃以上
嚴重警戒	WBGT指数：28.0～30.9℃
警戒	WBGT指数：25.0～27.9℃
注意	WBGT指数：21.0～24.9℃
ほぼ安全	WBGT指数：21.0℃未満



環境関連（コンプレッサ性能試験装置の自然冷媒対応）

環境負荷（地球温暖化への影響）が少ない自然冷媒（二酸化炭素等）に対応した**コンプレッサ性能試験装置**を提供しています。

- 近年猛暑日が増えており、エアコンは必需品となっていますが、エネルギー需給を逼迫させる原因にもなっており、高効率で省エネなエアコンの開発と普及が求められています。
- エアコンの冷媒(室内の"暑さ"を外に運ぶ役割をする物質)には性能の良いフロンが使われてきましたが、オゾン層を破壊するため使用が制限されています。



コンプレッサ性能試験装置

自然冷媒（二酸化炭素等）への対応が必要となり、当社では自然冷媒に対応したコンプレッサ性能試験装置を提供しています。

その他のソリューション事例

ソリューション事例は当社のホームページに掲載されております。
※URL : https://www.chino.co.jp/solution_field/

HOME > ソリューション

ソリューション

チノグループは、「共創・特長・信頼」の基本理念のもと、「計測・制御・監視」の技術により、あらゆる産業分野（電子産業、先端素材、農業、食品、医薬等）において、品質向上、生産の効率化、安全・安心、地球温暖化防止等の最適なソリューションを提供し、持続可能な社会の実現に貢献しております。

- 半導体
- 鉄・鋼
- 自動車
- 医療
- 食品
- アグリビジネス（農業）
- エネルギー
- 新素材
- ガラス

その他

↑ ページの先頭へ

HOME > ソリューション > 半導体

半導体

- 電子部品、半導体部品の保管庫・クリーンルームの温湿度管理
- 半導体ウエハ表面研磨温度測定
- 半導体・PV Si ウエハレジスト剥離液温度センサ
- 電子部品の異常発熱検知
- 廃液中成分・汚濁測定
- 半導体製造プロセスセクションガイド
- シリコン単結晶引き上げ装置用放射温度計
- 工程自動判定システム
- 恒温槽レシピ管理システム
- ヒューマンエラー是正・簡単IoT化
- AEC試験の運用を支援
- コネクタの評価試験
- 露点監視システム～無線ロガーと記録計の組合せ～
- 露点監視システム～無線ロガーとアプリケーションソフトの組合せ～
- ガスセンサ評価試験装置のご案内

》 5. 決算概要

CHINO



決算ハイライト

2024年3月期 第2四半期 連結業績

売上高



12,000百万円

前年同期比 16.8%増



受注高



13,009百万円

前年同期比 8.3%減



売上高は、当社顧客（製造業）の設備投資が堅調に推移するとともに、部材供給不足が一部を除いて解消したこと等により生産が安定化し増収。

受注高は、脱炭素関連（燃料電池評価試験装置や水電解評価装置）の需要が継続するも、前年同期の実績が高水準だったこともあり、前年同期比では減少。

<利益面>

営業利益



914百万円

前年同期比 69.7%増



経常利益



1,064百万円

前年同期比 38.2%増



当期純利益（親会社株主に帰属）



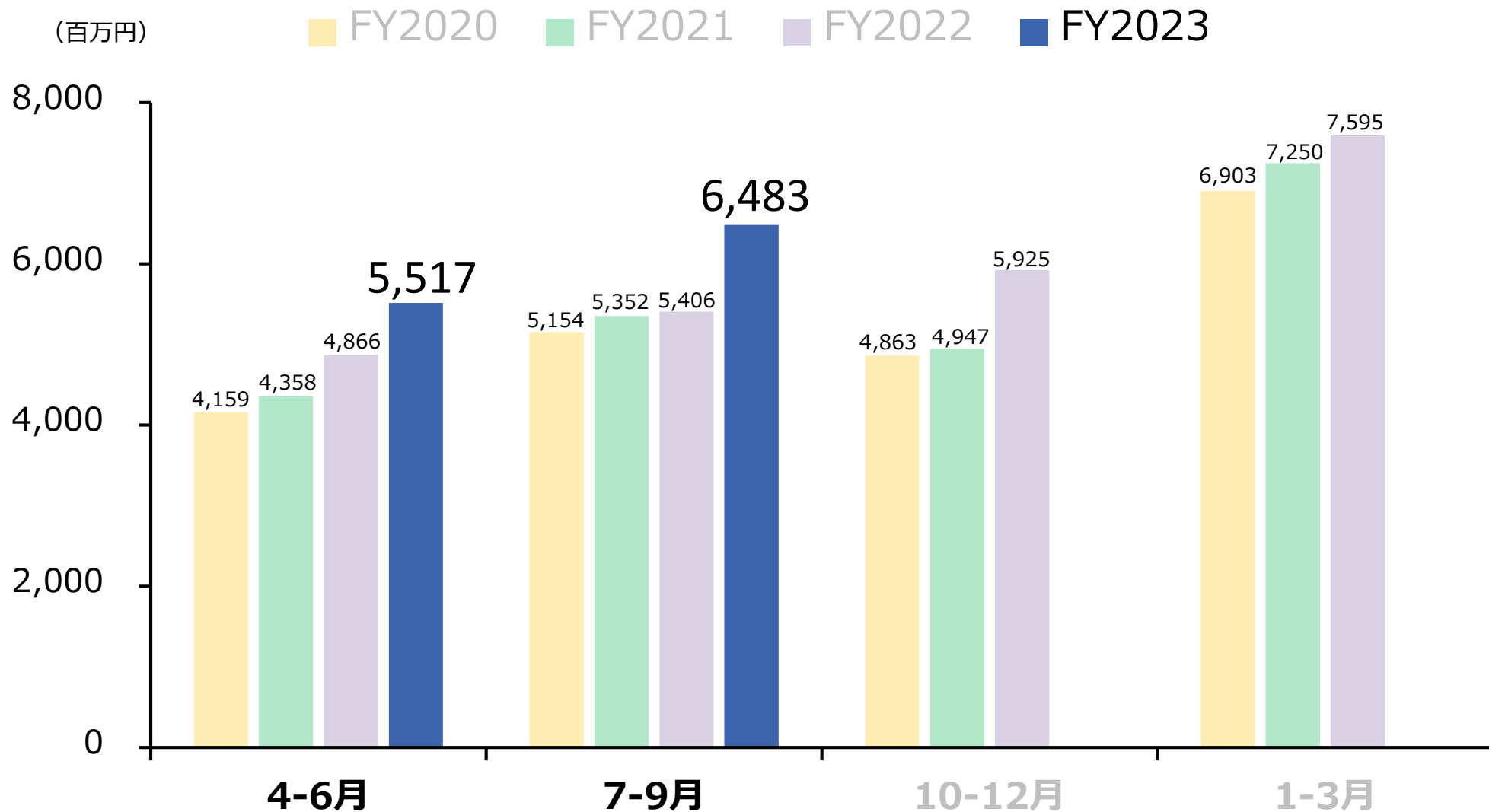
618百万円

前年同期比 38.4%増



利益は、販管費の抑制・販売価格の見直し・増収効果により各項目とも増益。

売上高の四半期別推移



セグメント別業績

◇セグメント別業績

(百万円)

	受注高				売上高				セグメント利益（営業利益）			
	FY2022 2Q累計	FY2023 2Q累計	増減額	増減率 (%)	FY2022 2Q累計	FY2023 2Q累計	増減額	増減率 (%)	FY2022 2Q累計	FY2023 2Q累計	増減額	増減率 (%)
計測制御機器	4,307	4,166	▲ 141	▲ 3.3	3,781	4,524	743	19.7	425	598	172	40.6
計装システム	5,926	4,774	▲ 1,152	▲ 19.4	2,849	3,486	636	22.3	363	532	169	46.7
センサ	3,570	3,656	85	2.4	3,208	3,537	328	10.2	481	622	141	29.4
その他	377	412	34	9.2	433	452	18	4.3	95	97	2	2.6
全社費用									▲ 825	▲ 936	▲ 110	—
合計	14,182	13,009	▲ 1,173	▲ 8.3	10,273	12,000	1,727	16.8	538	914	375	69.7

損益状況

売上高



4,524百万円 前年同期比 19.7%増



セグメント利益



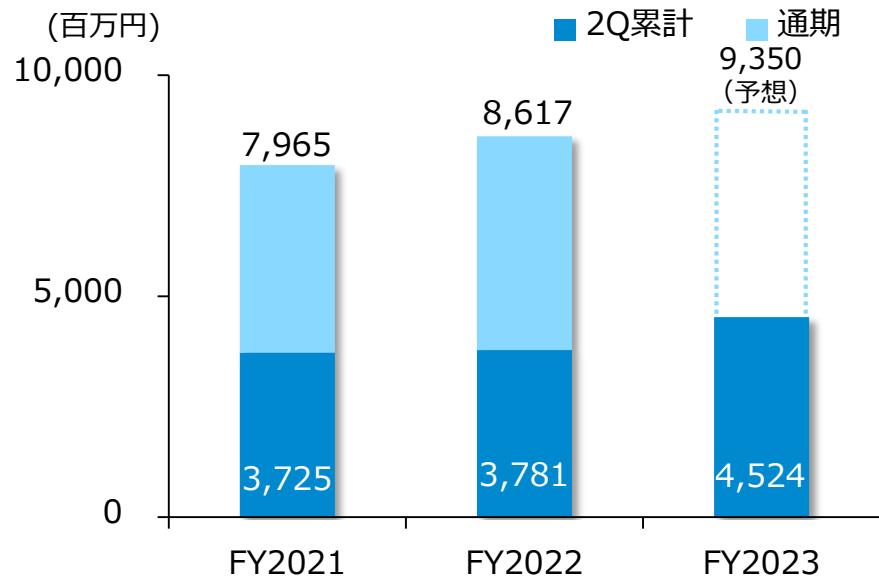
598百万円 前年同期比 40.6%増



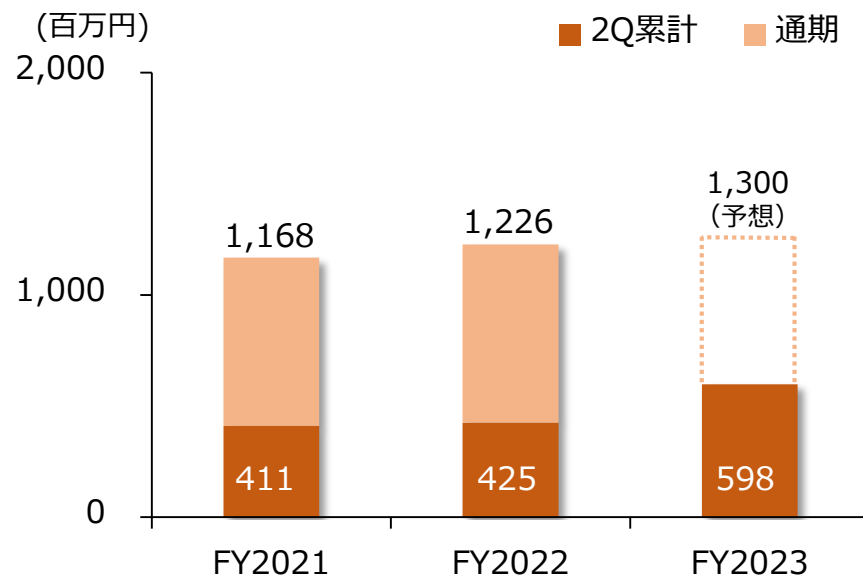
製品別状況

- 半導体・電子部品の製造設備や熱処理装置向けを中心に需要は堅調
- 海外市場（特に中国、韓国）の需要が伸長
- 利益は、増収効果等により前年同期比で大巾増益（※ 前期2Qは中国都市封鎖によるサプライチェーン混乱のため一部製品の生産売上に影響）

<売上高>



<セグメント利益>



損益状況

売上高

3,486百万円 前年同期比 22.3%増



セグメント利益

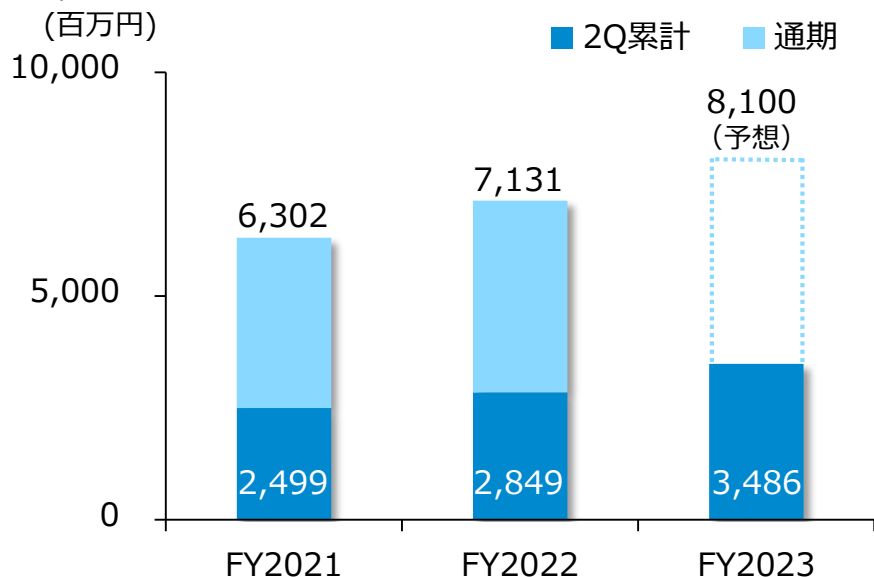
532百万円 前年同期比 46.7%増



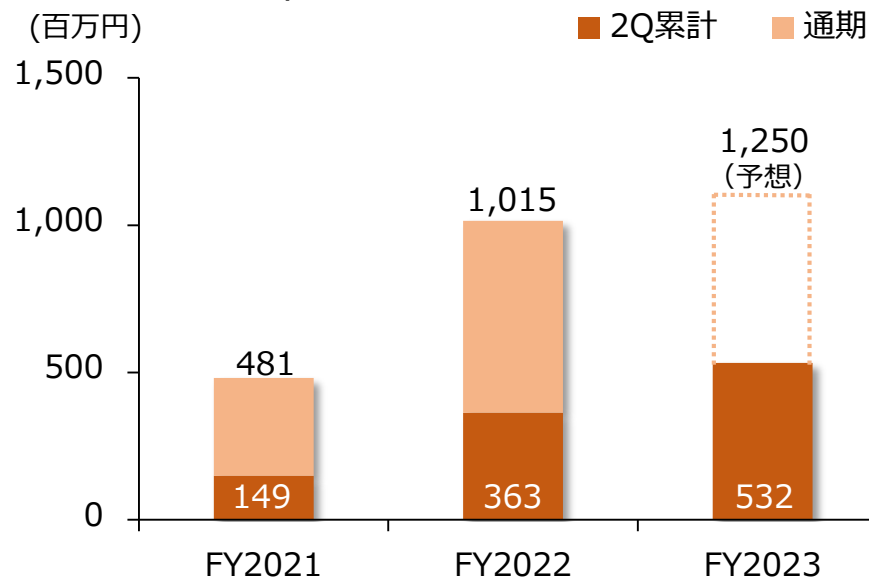
製品別状況

- 脱炭素化関連として、自動車向けなどの燃料電池評価試験装置や水素エネルギー利用の研究・開発用途の水電解評価装置の需要が拡大
- コンプレッサ性能試験装置は自然冷媒対応機器の需要により売上高が回復
- 利益は、増収効果等により前年同期比で大巾増益

<売上高>



<セグメント利益>



損益状況

売上高



3,537百万円 前年同期比 10.2%増



セグメント利益



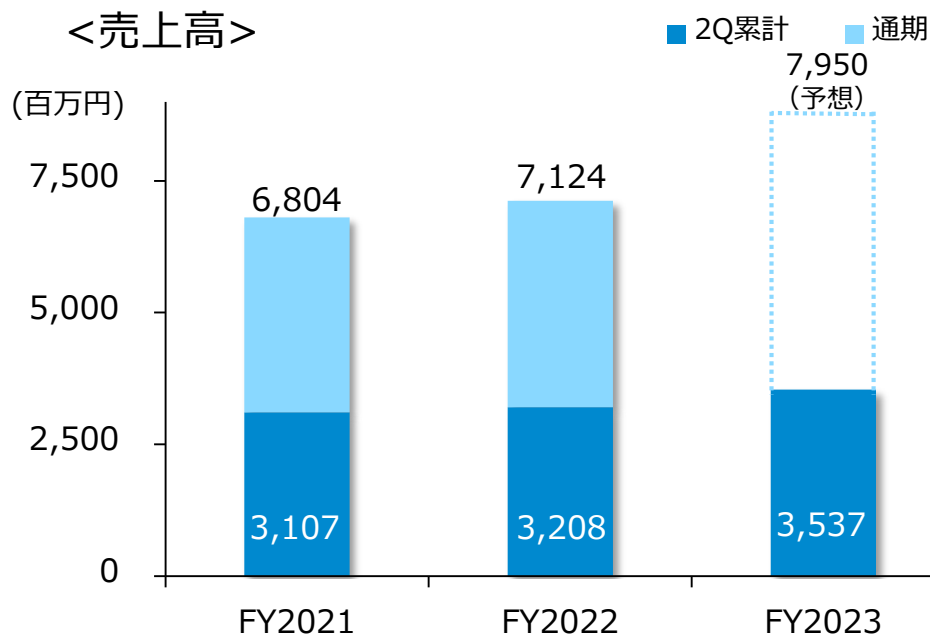
622百万円 前年同期比 29.4%増



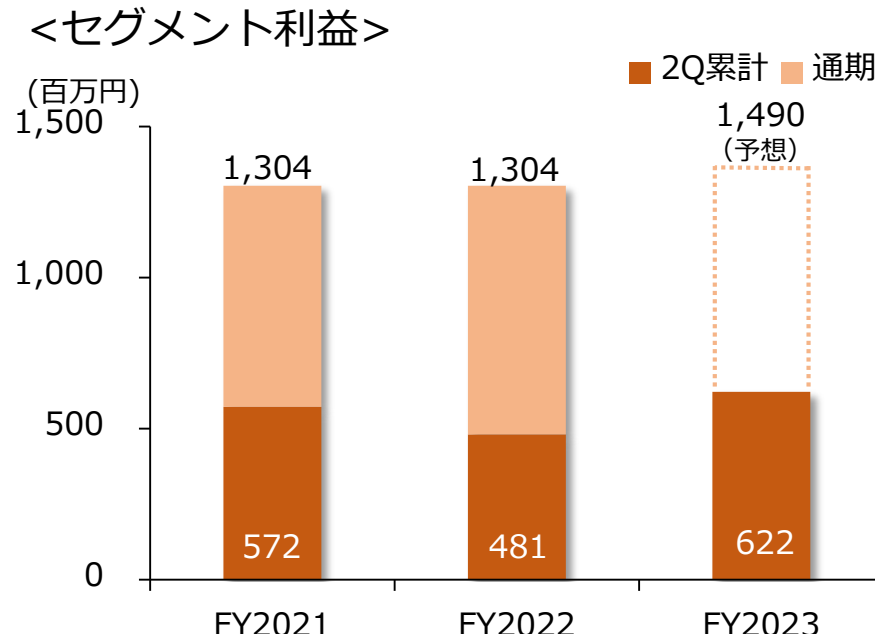
製品別状況

- 放射温度計、温度センサともに半導体関連の製造装置向けを中心に需要が好調
- AMS規格対応の温度センサの需要が堅調 ※AMS規格：航空宇宙産業における特殊工程の規格
- 利益は、増収効果等により前年同期比で大巾増益

<売上高>



<セグメント利益>



通期業績予想（2023年11月10日修正発表）

当第2四半期業績の進捗及び下期についても引き続き主要顧客（自動車・電子部品分野等）の脱炭素化に向けた水素関連での需要が見込まれる状況を勘案し、2023年度の通期業績予想を修正しました。

（百万円）

項目	FY2023 業績予想修正 (2023年11月10日発表)	FY2023 当初業績予想 (2023年5月12日発表)	増減額	増減率 (%)
売上高	26,400	26,000	400	1.5
営業利益	2,420	2,150	270	12.6
経常利益	2,620	2,350	270	11.5
当期純利益 (親会社株主に帰属)	1,710	1,550	160	10.3

➤ 6. 今後の取組み

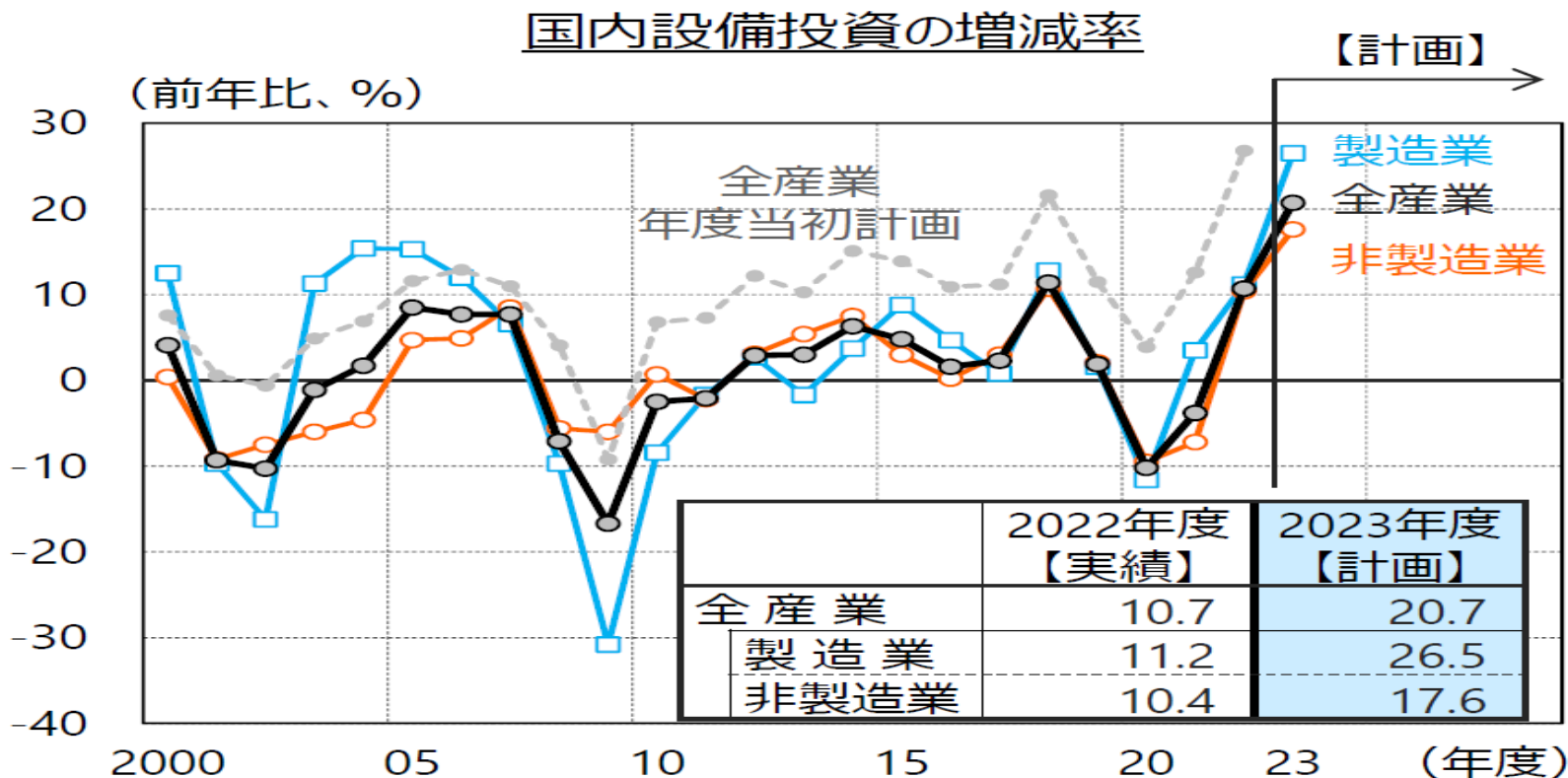
CHINO



2023年度の設備投資（大企業）の状況

- 2023年度は、全産業（大企業）では前年比20.7%（製造業26.5%、非製造業17.6%）の大幅増の計画。

2022年度見送った投資に加え、EV投資の増加やデジタル化需要拡大に向けた半導体関連の投資の増加（半導体材料の能力増強投資が特に堅調）もあり、製造業・非製造業ともに2年連続で増加する見込み。



出所：日本政策投資銀行

2023年度の設備投資の特徴

半導体の製造能力増加（デジタル化の加速）。

鉄道の安全対策・航空機導入（コロナ5類移行に伴う人流拡大）。

	デジタル化・半導体			脱炭素			人流拡大
	省人化	半導体	EV	再エネ	省エネ	その他	都市機能高度化
鉄鋼・非鉄		シリコンウエハ	電磁鋼板		高炉・電炉 効率化	電炉 能力増強	
化学		電子材料	電池 EV関連の 能力増強			CO ₂ 回収	
電気機械		電子部品			パワー 半導体		
輸送用機械			電動化開発拠点		省エネ設備 導入		
一般機械	自動化ロボット				少額なものを含め 幅広くみられる		
通信・情報	5G→データセンター						
電力・ガス				太陽光 風力			
石油				太陽光 風力		SAF	
小売	AI発注			太陽光			
運輸	非接触決済		EVの導入	太陽光	駅構内の LED化		人流拡大 に向けた 都市機能 高度化の 再開・継続
不動産				太陽光 風力	ZEB ZEH		鉄道
サービス	AI警備						航空機
							物流施設
							都心再開発
							ホテル

（備考） 橙色は昨年度から大きく増加した投資

出所：日本政策投資銀行

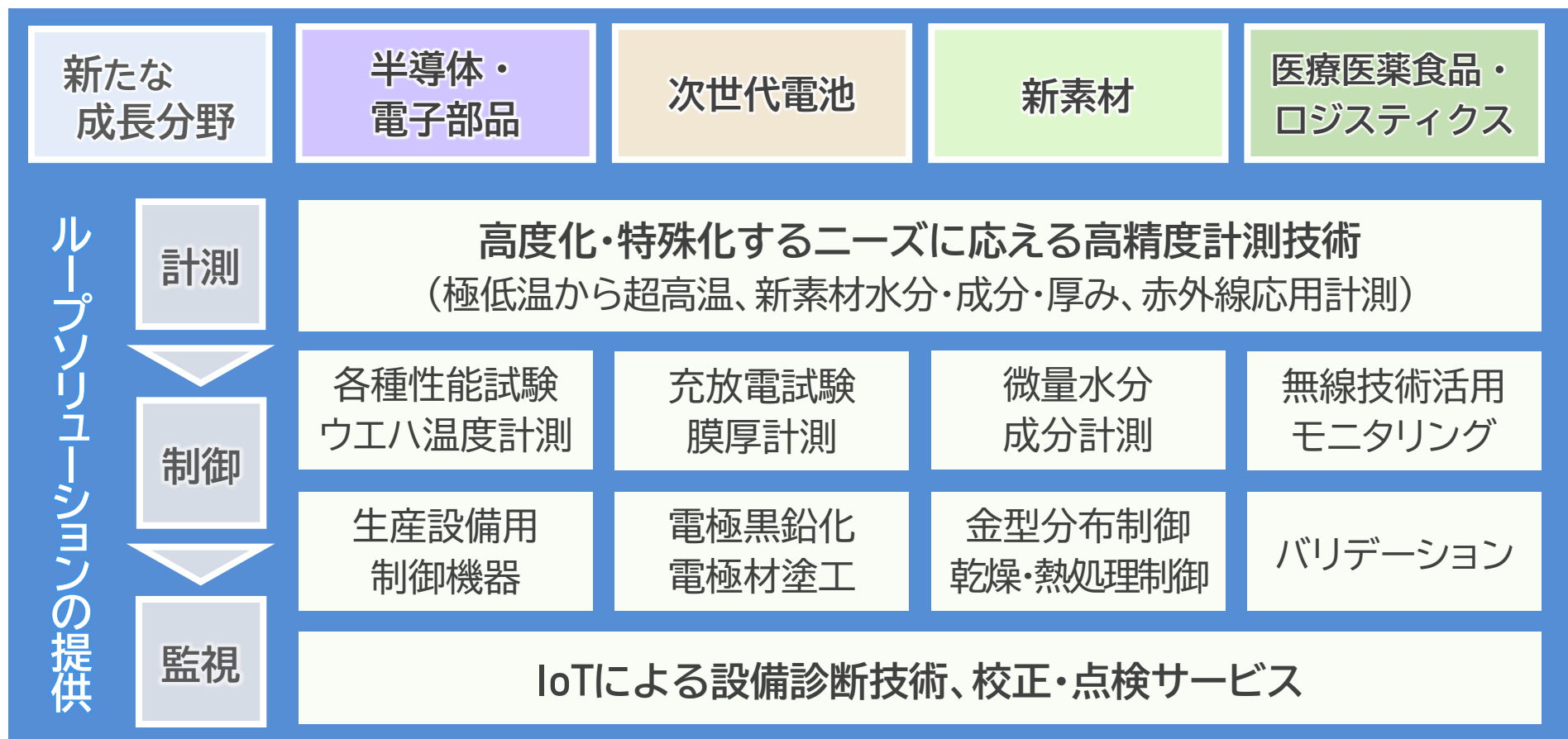
水素社会に向けた事業活動

水素社会（カーボンニュートラル2050）に向けて事業活動を行う。

水素	作る	運ぶ	貯める	使う
キーワード	グリーン・ブルー・グレー水素、人工光合成、液化水素、MCH、アンモニア合成 メタネーション、CCUS、蓄電池、水素・アンモニア燃焼、電動化エネルギー			
	電気・温度 流量・ガス濃度	温度・圧力 ガス濃度	電気・温度 ガス濃度	自動車・航空機 船舶・発電所
技術開発支援	極低温センサ ガス成分計測 触媒物性試験 プラント制御監視	クラウド活用 船用センサ 無線モニタ機器 熱画像設備診断	極低温センサ ガス成分計測 プラント制御監視 熱画像設備診断	蓄電池性能試験 FC性能試験 水素エンジン試験 プロセス用ガスセンサ
センシング技術	既存製品とセンシング技術の組合せによる新たな計測技術の創造			
製品開発	プロジェクト活動に基づく市場・顧客ニーズに対応した製品の開発			

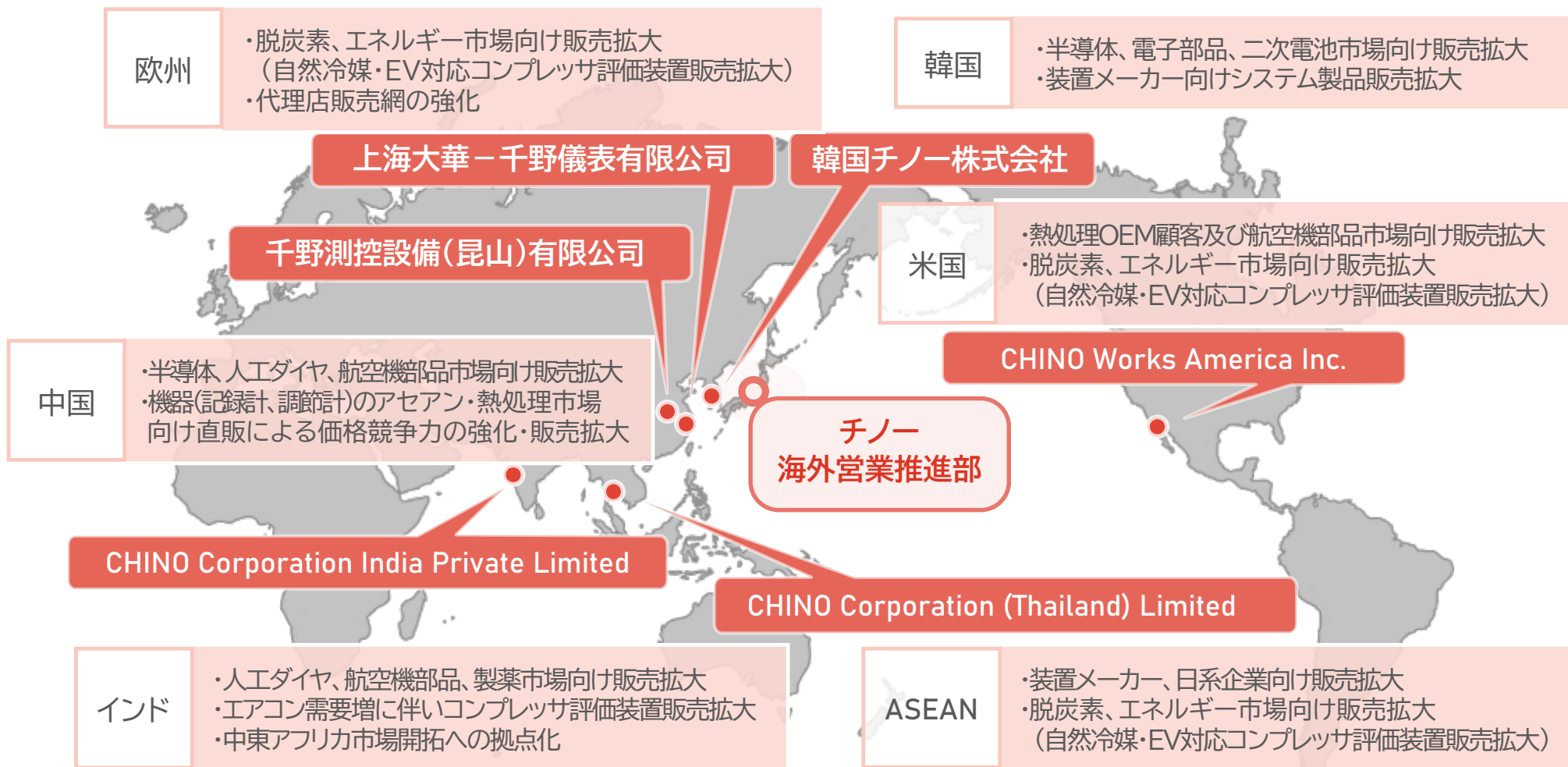
成長市場拡大にむけて

新たな成長分野・市場に向けて**特長あるソリューション**の開発と提供を進めることで競争優位性を発揮し、事業の拡大と社会課題の解決を実現する。



海外戦略（2026年度海外売上70億円に向けて）

複数国市場の限定マーケットニーズに合致したグローバル専用製品で販売拡大。
中国生産機器のアセアン・熱処理市場向け直販による価格競争力の強化・販売拡大。



➤ 7. トピックス

CHINO



プライム市場の適合状況等（2023年9月末）

【プライム市場の上場維持基準の適合状況】

- プライム市場の上場基準の内、下記2項目（流通株式時価総額、1日平均売買代金）が2021年6月末時点で未達でしたが、2023年3月末時点に引き続き、2023年9月末時点においても基準をクリアしております。

項目	プライム市場基準	当社の実績		適合状況 (2023年9月末)
		2023年3月末時点	2023年9月末時点 (※)	
流通株式時価総額	100億円	124.9億円	137.6億円	○
1日平均売買代金 (※)	20,000千円	44,672千円	48,941千円	○

※ 「1日平均売買代金」

2023年3月末：2022年1月～12月の平均売買代金

2023年9月末：2023年1月～9月の平均売買代金

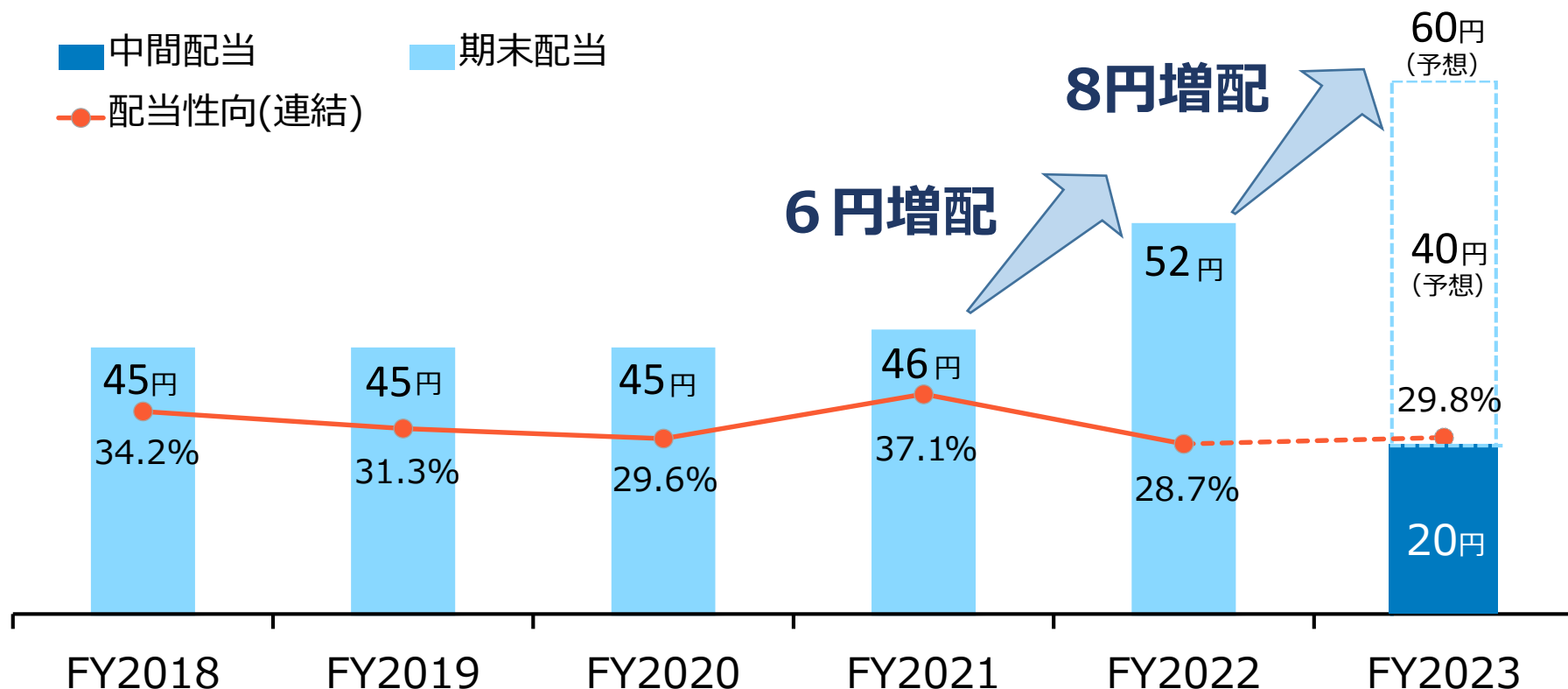
》 8. 株主還元等

CHINO

- 1) 株主還元
- 2) 株主優待制度
- 3) 株価推移（過去10年間）



- FY2023中間配当 : 20円
 - FY2023期末配当 (予想) : 40円
- } 60円 (予想)
(FY2022比 **8円増配**)



※自社株式取得：2016年12月～2017年5月に120百万円（100,000株）実施
自己株式消却：2017年7月に300,000株実施

【制度の概要】

- 毎年3月末現在の**3単元（300株）以上保有の株主様が対象**となります。
 - ポイントは**次年度へ繰り越し可能**（1回のみ）。
 - 株主様の保有株式数に応じてポイントが贈呈され（次ページ参照）、ウェブサイト「**チノー・プレミアム優待倶楽部（※）**」において食品、電化製品等5,000種類以上の商品から交換できます。
- ※URL：<https://chino.premium-yutaiclub.jp/>



松阪牛シャトー
ブリアン

伊勢海老
割烹料理

新潟米食べ比べ
セット

クッキー&
チョコレート

鹿児島黒牛・
米沢牛焼肉御膳

日本酒&梅酒

<株主優待ポイント表 (1ポイント≒1円) >

保有株式数	付与されるポイント	贈呈時期
300株～399株	4,000	毎年5月
400株～499株	8,000	
500株～599株	15,000	
600株～699株	20,000	
700株～999株	25,000	
1,000株～1,999株	30,000	
2,000株～4,999株	35,000	
5,000株以上	40,000	

株価推移（過去10年間）

（東証プライム：6850）

■ 株価：2,066円

（2023年11月30日終値）

■ 単元株式数：100株

■ 売買最低代金：206,600円

時価総額
（2023年11月30日終値）

191億円

PER 予想※1

10.26倍

PBR 実績※2

0.91 倍

※1 2023年11月30日の終値及び通期の業績予想における1株当たり当期純利益を用いて算出しております。

※2 2023年11月30日の終値及び1株当たりの純資産を用いて算出しております。

（月足チャート）



出典：Yahoo! Finance

当社ホームページのご案内

CHINO

ダウンロード 展示会情報 採用情報 English

製品/サービス ソリューション サポート技術情報 お知らせ 企業情報 IR情報 サステナビリティ お問い合わせ

Measure with Passion

温度を極める

テノーグループは温度を中心とした計測・制御・監視を通して、社会の発展に貢献しています

NEWS

お知らせ

一覧を見る

2022.06.20	IR情報	招集通知記載事項の一部訂正についてを掲載致しました。
2022.06.14	展示会情報	第24回インターフェックスジャパンに出展致します。
2022.06.14	IR情報	決算説明会（2022年3月期）の資料を掲載致しました。
2022.06.13	サポート技術情報	ISO18436-7機械状態診断新技術者（サーモグラフィ）の海外診断新技術者訓練コース（カテゴリー1）を開講致します。
2022.06.10	IR情報	第86回定時株主総会招集ご通知を掲載致しました。
2022.06.10	IR情報	第86回定時株主総会招集ご通知に際しての法令および定款に基づくインターネット開示事項を掲載致しました。
2022.06.10	IR情報	招集通知記載事項（書面）の一部訂正についてを掲載致しました。
2022.06.09	IR情報	定款の一部変更に関するお知らせを掲載致しました。

当社ではホームページにて企業情報を掲載しています。

当社の事業紹介、サステナビリティに対する取組みのほか、トピックスやIR情報も随時開示しております。どうぞお気軽にアクセスしてみてください。

URL: <https://www.chino.co.jp/>



➤ Appendix

CHINO

- | | |
|---------------------------------|-----|
| 1) 財務データ | P56 |
| 2) 資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応 | P58 |
| 3) 人的資本経営の実現に向けた対応 | P60 |
| 4) サステナビリティ関連 | P62 |
| 5) 新製品、その他ソリューション事例等 | P68 |

連結貸借対照表

- 資産 前期末比では、棚卸資産が2,134百万円増加した一方で、売上債権・現預金等が2,897百万円減少したこと等により合計▲282百万円
- 負債 長期借入金の減少等により固定負債は▲202百万円、仕入債務の減少等により流動負債は▲572百万円となり、負債合計では前期末比▲774百万円
- 純資産 四半期純利益の増加等により、前期末比+492百万円

(百万円)

科目	2023年3月末	2023年9月末	増減
流動資産	26,322	25,563	▲ 759
現預金	9,176	7,291	▲ 1,885
売上債権	8,281	7,269	▲ 1,012
棚卸資産	8,576	10,711	2,134
その他	287	292	4
固定資産	9,967	10,443	476
有形固定資産	5,578	5,832	253
無形固定資産	436	403	▲ 33
投資その他の資産	3,952	4,207	255
資産合計	36,289	36,007	▲ 282

科目	2023年3月末	2023年9月末	増減
流動負債	10,489	9,917	▲ 572
仕入債務	5,317	5,173	▲ 144
短期借入金	1,724	1,673	▲ 51
その他	3,446	3,070	▲ 376
固定負債	4,225	4,023	▲ 202
長期借入金	1,660	1,480	▲ 179
その他	2,565	2,543	▲ 22
純資産	21,574	22,066	492
株主資本	18,471	18,662	190
その他の包括利益累計額	312	602	290
非支配株主持分	2,790	2,801	10
負債純資産合計	36,289	36,007	▲ 282

自己資本比率：2023年9月末 53.5%、2023年3月末 51.8%

キャッシュ・フロー

- 営業CF：棚卸資産の増加が主因で▲398百万円（前年同期比▲1,337百万円）
- 投資CF：定期預金の払い戻しによる収入等により+271百万円（同+387百万円）
上記の結果、フリーCFは▲126百万円（同▲950百万円）
- 財務CF：配当金支払・長期借入金の返済等により▲805百万円（同▲150百万円）

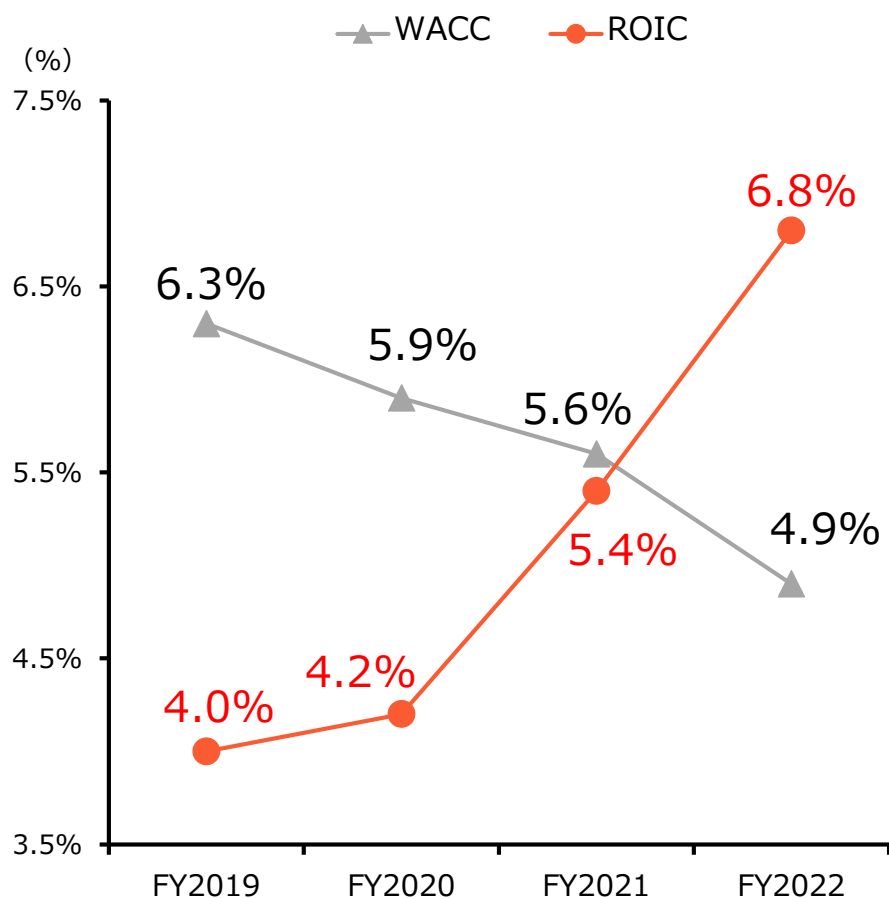
(百万円)

区 分	FY2022 2Q累計	FY2023 2Q累計	増減額
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	939	▲398	▲1,337
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲115	271	387
フリー・キャッシュ・フロー (I+II)	823	▲126	▲950
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲655	▲805	▲150
IV. 現金・現金同等物の換算差額	116	59	▲57
現金・現金同等物増減	285	▲873	▲1,158

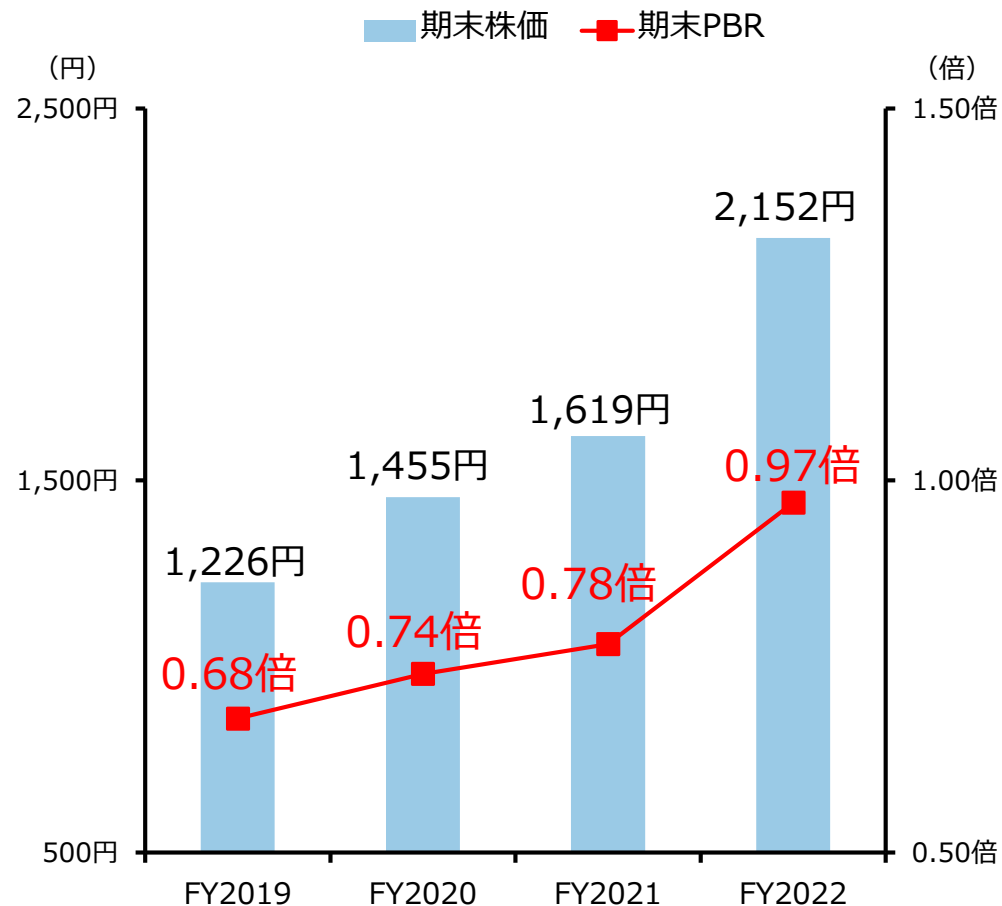
資本コストや株価を意識した経営 の実現に向けた対応①

現状認識・分析

<資本収益性・資本コスト>



<株価・PBR>



資本コストや株価を意識した経営 の実現に向けた対応②

取組み方針

1) 成長戦略

- ・中期経営計画（最終年度：2026年度）の目標（売上高：300 億円、営業利益：27 億円、ROE：10% 等）達成への取組み

2) 財務・資本戦略

- ・株主還元の充実
 - 連結配当性向30%を目安に安定配当を継続
 - 中間配当の再開（当期中間配当より実施）
- ・政策保有株式の縮減（2021年度以降、順次実行）

3) I R 活動の充実

- ・「機関投資家向け説明会」「個人投資家向け説明動画の配信」の継続
- ・個別 I R ミーティングの機会拡充
- ・IR情報/非財務情報（サステナビリティ情報等）発信の充実

人的資本経営の実現に向けた対応

人財育成方針

当社グループは、「人」こそ最大の財産であり「人財」の意欲・能力の向上と役割の発揮が当社グループの持続的成長を支える源と考え、「一人ひとりの個性を尊重し強みを活かすこと」「自己成長に向けて努力・研鑽する社員を支援すること」「成長に正しく報いること」を基本方針として人財育成に取り組んでいきます。

職場環境整備方針

当社グループは、多様な個々人が生き生きと安心して最大限に力を発揮できることが新たな価値創造の原動力になると考え、職場の安全と一人ひとりの心身の健康を守るとともに、多様な価値観とライフスタイルを尊重し、業務特性や状況に応じた柔軟な働き方の選択等を通じて生産性の向上を実現する環境整備を推進していきます。

<人財育成及び社内環境整備に関する指標（当社）の目標と実績>

指標	2023年度目標	2022年度実績
一人当たりのトレーニング （能力開発）実施時間	9.5時間	8.5時間
年次有給休暇取得率	65.0%	62.6%
定期健康診断 再検診の受検率	50.0%	37.0%

健康優良企業「金の認定」を取得

当社は2022年7月に健康企業宣言を行い、健康経営の取組み項目について目標を定め、PDCAサイクルを回して実践した結果、2022年12月に従業員の健康づくりに積極的に取り組む企業として健康企業宣言東京推進協議会より、「金の認定」を取得いたしました。

<健康経営の取組み>

- ・ 従業員の健康管理に関する取組み
- ・ 職場環境の改善
- ・ 健康増進活動の実施
- ・ 健康経営に関する啓発活動の継続



「認定 協金第129号」

今後も健康経営の取組みを通じて、従業員一人ひとりが活力に満ち溢れて能力を発揮し、充実した生活を送れる環境を構築して、個人の幸福、会社の発展、社会への貢献を進めてまいります。

水素社会実現に向けた政策「水素基本戦略」

水素基本戦略（アンモニア等を含む）の改定（2023年6月6日）

<主なポイント>

①水素社会の実現を加速化

「2040年の**水素利用量**の目標」を**1,200万トン程度**とする。

②水素生産基盤の確立

「2030年の国内外における日本企業関連の水電解装置の導入目標」を**世界の水電解装置（水素製造装置）の導入見通しの約1割**とする。

③水素等製造サプライチェーンの構築

官民合わせて15年間で15兆円の投資計画とする。

④クリーン水素への移行

「クリーン水素」の世界基準を日本がリードして策定する。

（出所：経済産業省、資源エネルギー庁 作成資料）

水素社会実現に貢献

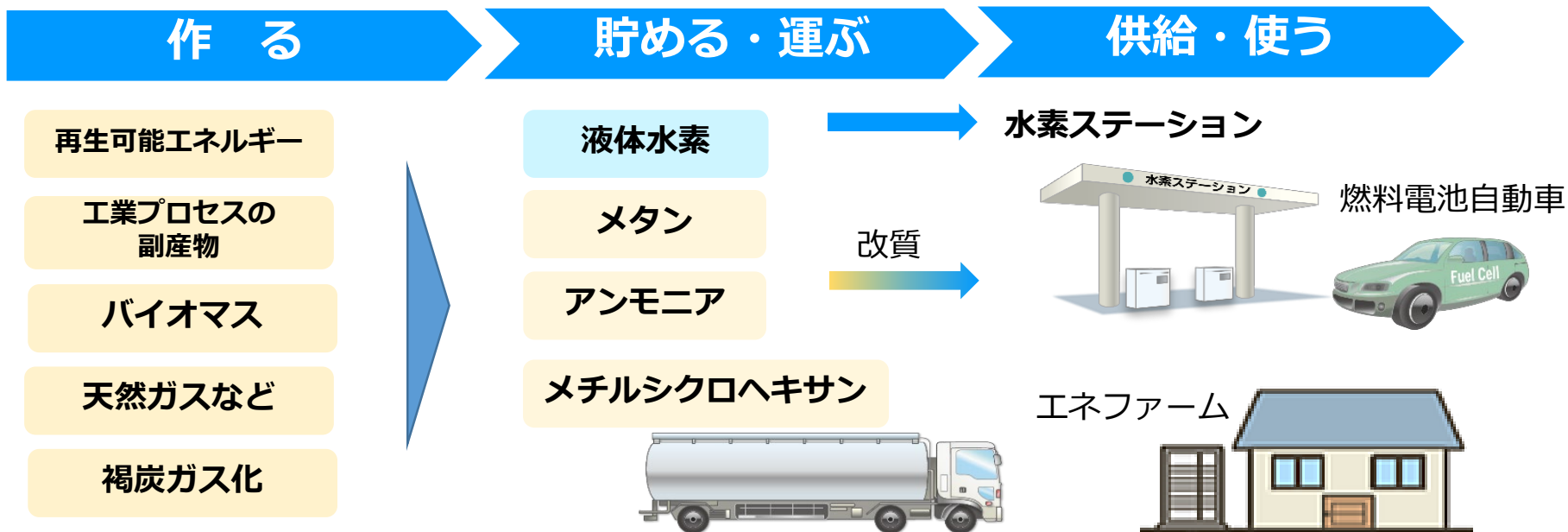
持続可能な社会を実現する水素エネルギー

水素は利用段階ではCO₂を排出しないエネルギー源であり、電力・産業・運輸などの産業分野での低炭素化に向けて活用が期待されています。水素はさまざまな資源から作り出すことができ、世界的に水素サプライチェーンの開発が進んでいます。

水素サプライチェーンの構築

水素をエネルギーとして活用するために、水素の製造・輸送・貯蔵・利用まで一貫したサプライチェーン開発の取り組みが行われています。

チノーは評価試験装置、センシング技術などを提供し水素社会実現に貢献しています。



気候変動リスクへの対応

■ 事業活動のカーボンニュートラルに向けたロードマップ

	～2022年度	2026年度	2030年度	2040年度
目標	※2020年度 排出実績値 Scope1： 261t-CO2 Scope2： 2,449t-CO2	Scope1,2のGHG排出量 実質0へ (一部カーボンオフセット利用)		"カーボンニュートラル" Scope1,2のGHG排出量 完全0へ
	Scope1,2排出量 70%削減 (2020年度(※)比)	Scope1,2 排出量 90%削減 (2020年度(※)比)	Scope1,2排出量 93%削減 (2020年度(※)比)	Scope1,2 排出量 100%削減 (2020年度(※)比)
実績	2022年度 Scope1,2排出量 83%削減 (2020年度(※)比)			

具体的取組み	◆ 事業活動における購入電力を、再生可能エネルギーに転換			
	■ 当社生産事業所の電力調達を再生可能エネルギー化(完了) 2021年10月 山形事業所 2021年11月 久喜事業所・本社 2022年 7月 藤岡事業所	■ 当社の電力調達を100%再生可能エネルギー化	■ 国内グループ会社の電力調達を100%再生可能エネルギー化	■ Scope1,2すべてを再生可能エネルギーより調達
	◆ 省エネの推進、生産設備のエネルギー効率向上 ◆ 当社事業所（山形事業所、藤岡事業所）への太陽光発電所設置			

Scope1：自社での燃料使用による温室効果ガスの直接排出量

Scope2：自社が購入した電力や熱の使用による温室効果ガスの間接排出量

ビオトープが「生物多様性保全活動賞」受賞

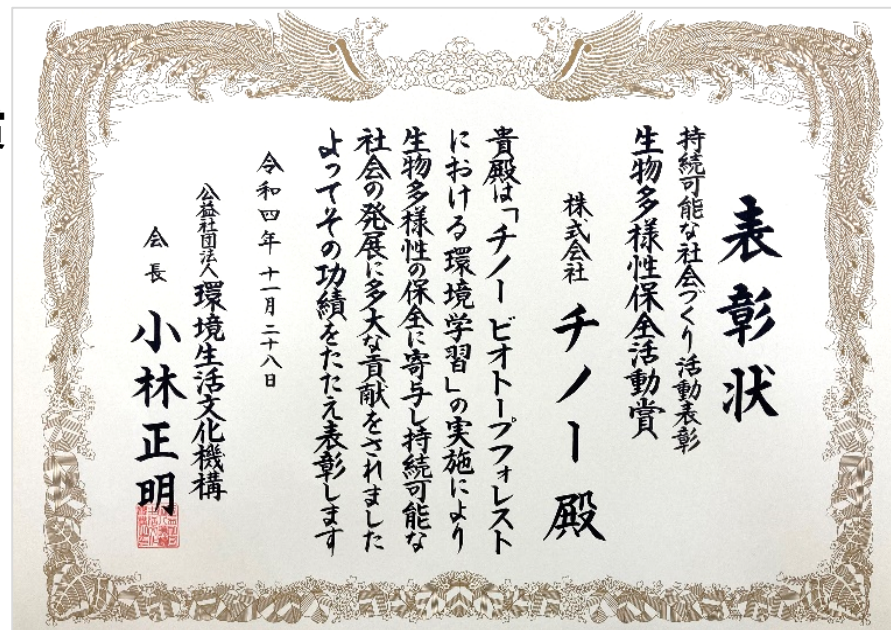
「チノービオトープフォレスト」での環境学習等の活動が評価され、2022年11月に公益社団法人環境生活文化機構より「**持続可能な社会づくり活動表彰（生物多様性保全活動賞）**」を受賞しました。

<取組み>

- ・ 地元小学校と連携した環境学習への積極的な取組み
- ・ 四季を通じた環境学習や当社社員が地元の小学校へ出向いて開催した出前授業などの活動

<主な受賞履歴>

- | | |
|----------|--------------------|
| 2013年11月 | 緑化優良工場等日本緑化センター会長賞 |
| 2014年 8月 | 関東水と緑のネットワーク拠点百選 |
| 2016年10月 | 緑化優良工場等関東経済産業局長賞 |
| 2018年 9月 | 環境教育等における体験の機会の場 |
| 2019年10月 | 全国みどりの工場大賞経済産業大臣賞 |
| 2022年11月 | 生物多様性保全活動賞 |



新製品：耐熱形熱画像計測装置

2023年1月に高温の試験環境で使用可能、温度分布をリアルタイム計測する耐熱形熱画像計測装置（CPA-L25HT）を発売しました。車載電子部品の信頼性評価基準を定めるAEC規格（※）の試験を支援します。

※AEC規格：車載電子部品評議会が定める車載用電子部品の信頼性世界基準規格

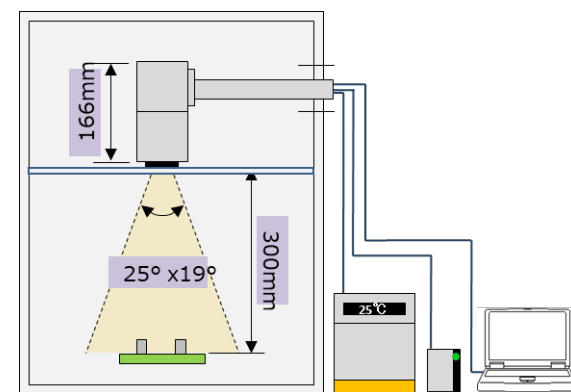
特長

- 高温（最高150℃）の試験環境で使用可能
- 点ではなく面で、温度変化を捉えることが可能
- 電子部品の発熱状態をリアルタイムに可視化
- 自動車部品や半導体等メーカーにおいて製品評価で利用



耐熱形熱画像計測装置

電子部品の発熱状態



新製品：高放射率平面黒体炉

2023年3月に非接触検温などに用いられるサーモグラフィや放射温度計の測定温度の精密かつ正確な基準となる平面黒体炉（IR-R40）を国立研究開発法人産業技術総合研究所と共同開発し、発売しました。

特長

- 高放射率0.995 以上を実現し、高精度な校正
- 小形・軽量で持ち運びや設置が容易
- 卓上設置または三脚取付けが可能
- 通信インターフェイス付き

導入例

- 検温用サーモグラフィ（大型商業施設、病院、空港等に設置）への高精度な校正作業にご利用頂けます。

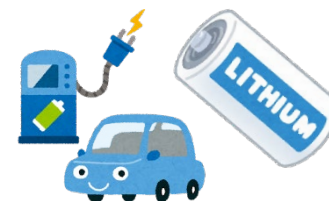


高放射率平面黒体炉

新素材関連 (EV:電気自動車向け)

電気自動車に搭載される**リチウムイオン電池の製造工程**を当社の**赤外線技術で支援**しています。

◆産業技術総合研究所との共同研究成果



塗布直後の 固形分濃度を測定

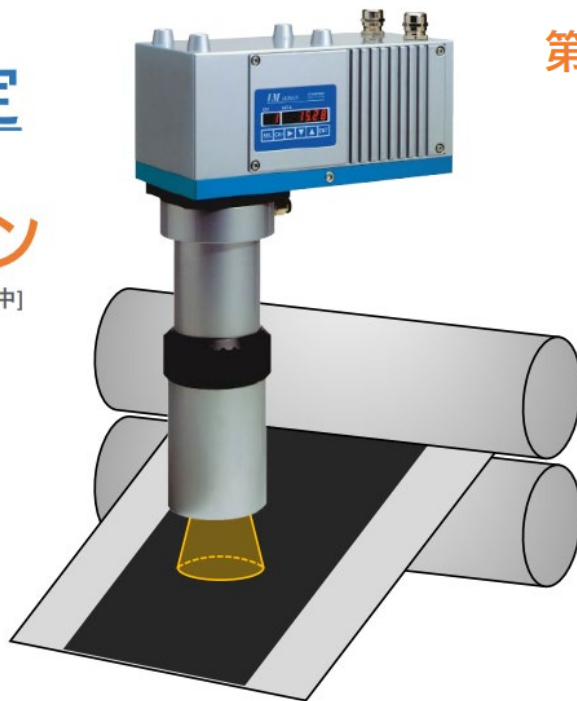
波長最適化エンジン により...

[特許出願中]

これまでの

- ・黒色体の光減衰
- ・膜厚による変動
- ・含有成分による変動

の問題を解決



第64回電池討論会にて発表

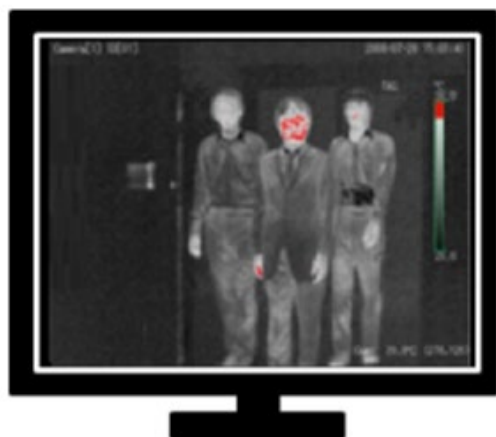
2023年11月29日
大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)
9:00~9:20 @ C会場



- ◆リチウムイオン電池の製造工程には、集電体に「スラリー（電極合成塗料）」を塗布する工程があり、「スラリー」が正常に塗布されていないと不良品となる。この「スラリー」塗布直後の「固形分濃度」を非接触（赤外線）で計測し、「スラリー」の塗布が異常なものを検知する方法を開発。

コロナ関連（発熱者の早期発見）

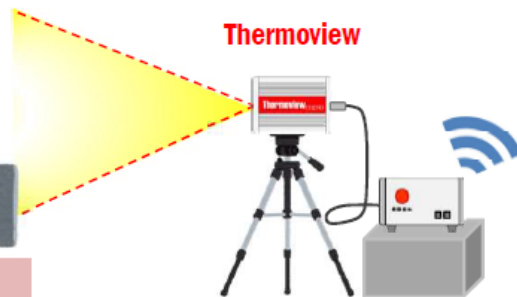
当社の熱画像（サーモグラフィ）カメラが**発熱者の早期発見**に役立っています。



Thermoview



セキュリティゲートとの連動



警備室



本資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、当社およびグループ各社が現時点で入手可能な情報に基づいており、この中には潜在的なリスクや不確定要素も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向等により、本資料における業績見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

CHINO